

وَمَا أَنْزَلْنَاهُ عَلَى قَوْمِهِ مِنْ بَعْدِهِ مِنْ جُنْدٍ مِنَ السَّمَاءِ وَمَا كُنَّا مُنْزِلِينَ ﴿٣٨﴾ إِنْ كَانَتْ إِلَّا صَيْحَةً وَاحِدَةً فَإِذَا هُمْ خَامِدُونَ ﴿٣٩﴾ يَحْسِرَةً عَلَى الْعِبَادِ مَا يَأْتِيهِمْ مِنْ رَسُولٍ إِلَّا كَانُوا بِهِ يَسْتَهْزِئُونَ ﴿٤٠﴾ أَلَمْ يَرَوْا كَمْ أَهْلَكْنَا قَبْلَهُمْ مِنَ الْقُرُونِ أَنَّهُمْ إِلَيْهِمْ لَا يَرْجِعُونَ ﴿٤١﴾ وَإِنْ كُلُّ لَمَّا جَمِيعٌ لَدَيْنَا مُحْضَرُونَ ﴿٤٢﴾ وَءَايَةٌ لَهُمْ الْأَرْضُ الْمَيِّتَةُ أَحْيَيْتَهَا وَأَخْرَجْنَا مِنْهَا حَبًّا فَمِنْهُ يَأْكُلُونَ ﴿٤٣﴾ وَجَعَلْنَا فِيهَا جَنَّاتٍ مِنْ تَحْتِهَا أَعْنَابٌ وَفَجَّرْنَا فِيهَا مِنَ الْعُيُونِ ﴿٤٤﴾ لِيَأْكُلُوا مِنْ ثَمَرِهِ وَمَا عَمِلَتْهُ أَيْدِيهِمْ أَفَلَا يَشْكُرُونَ ﴿٤٥﴾ سُبْحَنَ الَّذِي خَلَقَ الْأَزْوَاجَ كُلَّهَا مِمَّا تُثْبِتُ الْأَرْضُ وَمِنْ أَنْفُسِهِمْ وَمِمَّا لَا يَعْلَمُونَ ﴿٤٦﴾ وَءَايَةٌ لَهُمُ اللَّيْلُ نَسْلَخُ مِنْهُ النَّهَارَ فَإِذَا هُمْ مُظْلِمُونَ ﴿٤٧﴾ وَالشَّمْسُ تَجْرِي لِمُسْتَقَرٍّ لَهَا ذَلِكَ تَقْدِيرُ الْعَزِيزِ الْعَلِيمِ ﴿٤٨﴾ وَالْقَمَرَ قَدَرْتَهُ مَنَازِلَ حَتَّىٰ عَادَ كَالْعُرْجُونِ الْقَدِيرِ ﴿٤٩﴾ لَا الشَّمْسُ يَنْبَغِي لَهَا أَنْ تُدْرِكَ الْقَمَرَ وَلَا اللَّيْلُ سَابِقُ النَّهَارِ وَكُلٌّ فِي فَلَكٍ يَسْبَحُونَ ﴿٥٠﴾

②8 **われら**はかれを嘘つき呼ばわりして殺害したかれの民を破滅させるために、天から軍勢(天使たち)を遣わす必要はなかった。それよりも簡単な話で、空からの一声ですんだのだ。懲罰の天使たちを送ることもなかったのだ。

②9 ただ一声送るだけで、かれらは消え失せてしまった。後には何も残らなかった。例えば、それは燃えていた火が、跡形もなく一瞬にして消え失せたようなものだ。

③0 ああ、拒否してきた哀れな僕たちよ。処罰のある復活の日には、かれらは惨めな状況に出くわすこととなる。この世では、かれらは使徒が来るたびに笑い草にしていたからだ。だからかれらの結果としては、義務をおろそかにしたことへの復活の日の後悔でしかないのだ。

③1 かれらは気付かないのか。**われら**がかれら以前に多くの世代を滅ぼし、かれらはもう二度と帰ってこないということを。むしろかれらは、先立つ所業の結果を目にしたのであって、アッラーの報いを目の当たりにしたということである。

③2 確かに復活の日には、ひとり残らず**われら**の前に招集される。そして所業に対する報いを受けるのだ。

③3 かれらに復活の真実を伝える印の1つには、この乾いた不毛な大地がある。**われら**がそこへ雨を降らせて、種々の植物を育てて、人々が食べるための穀物を成長させる。雨を降らせて植物を育てるお方は、命を与え、また復活させることがお出来なのである。

③4 また**われら**は雨を送った大地に、ナツメヤシやブドウの園を設け、その間に灌漑をする泉を湧き出させる。

③5 かれらはその果実を食べるが、それはかれらの手が作り出したものではない。それらはアッラーの恵みであり、豊かな糧と慈悲の賜物である。それでもかれらは、かれのみを崇拜し、その使徒を信頼して、感謝しないのか。

③6 **かれ**の栄光に称賛あれ。**かれ**は大地に生える植物や人々をすべて雌雄に創り、大地、空、その他の所に人が知らないものを創造された。

③7 また、かれらへのアッラーの唯一性の印の1つには夜がある。**われら**が夜から昼を退かせると、かれらは真っ暗闇の中にいるのだ。

③8 また、かれらへのアッラーの唯一性の印の1つには、太陽がある。それはアッラーの定めに従って、ある一点までは動いて、それ以上を越えることはない。それは偉大なお方の定めであり誰もかれに勝ることはできず、そのお方からは何事も隠すことはできないのである。

③9 また、かれらへのアッラーの唯一性の印の1つには、夜ごとに変化する月の周期を定めたことがある。小さいのが大きくなり、また再び小さくなる。それはナツメヤシのねじれた古枝のように細くて黄色の三日月になって戻る。

④0 太陽、月、夜や昼といった印は、アッラーの予めの定めに従う。定められたよりも先に行くことはない。太陽が月に追いついて、その光を奪うことはなく、夜は昼の先を越すことはできない。これらすべての星々や星座は、アッラーのお定めに従って運行されている。

本諸節の功德:

- アッラーに反抗する者ほどアッラーにとって低劣な者はなく、アッラーに服従する者ほどアッラーにとって高貴な者はない。
- 復活の印の1つには、不毛の大地に緑が育ち、穀物が生えてくることがある。
- アッラーの唯一性の印の1つには、空と大地に創造した被造物が定めに応じて運行されていることがある。

وَأَيُّهُ لَّهُمْ أَنَا حَمَلَانٌ دُرِّيَّتُهُمْ فِي الْفَلَكِ الْمَشْحُونِ ٤٤١ وَخَلَقْنَا لَهُمْ مِنْ مِثْلِهِ مَا يَرْكَبُونَ ٤٤٢ وَإِنْ نَشَأْ نُغْرِقْهُمْ فَلَا صَرِيحَ لَهُمْ وَلَا هُمْ يُنْقَدُونَ ٤٤٣ إِلَّا رَحْمَةً مِنَّا وَمَتَاعًا إِلَىٰ حِينٍ ٤٤٤ وَإِذَا قِيلَ لَهُمُ اتَّقُوا مَا بَيْنَ أَيْدِيكُمْ وَمَا خَلْفَكُمْ لَعَلَّكُمْ تُرْحَمُونَ ٤٤٥ وَمَا تَلْبِسُهُمْ مِنَ آيَةٍ مِّنْ آيَاتِ رَبِّهِمْ إِلَّا كُتُوبًا مَّوَعَاتٍ ٤٤٦ وَإِذَا قِيلَ لَهُمْ أَنْفِقُوا مِمَّا رَزَقَكُمُ اللَّهُ قَالَ الَّذِينَ كَفَرُوا لِلَّذِينَ آمَنُوا أَنْطَعِمُ مَنْ لَوْ يَشَاءُ اللَّهُ أَطْعَمَهُ إِنْ أَنْتُمْ إِلَّا فِي ضَلَالٍ مُّبِينٍ ٤٤٧ وَيَقُولُونَ مَتَىٰ هَذَا الْوَعْدُ إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ٤٤٨ مَا يَنْظُرُونَ إِلَّا صَيْحَةً وَاحِدَةً تَأْخُذُهُمْ وَهُمْ يَخِصِّمُونَ ٤٤٩ فَلَا يَسْتَطِيعُونَ تَوْصِيَةً وَلَا إِلَىٰ أَهْلِهِمْ يَرْجِعُونَ ٤٥٠ وَنُفِخَ فِي الصُّورِ فَإِذَا هُمْ مِنَ الْأَجْدَاثِ إِلَىٰ رَبِّهِمْ يَنْسِلُونَ ٤٥١ قَالُوا يَوَيْلًا مَنْ بَعَثَنَا مِن مَّرْقَدِنَا هَذَا مَا وَعَدَ الرَّحْمَنُ وَصَدَقَ الْمُرْسَلُونَ ٤٥٢ إِنْ كُنْتُمْ إِلَّا صَيْحَةً وَاحِدَةً فَإِذَا هُمْ جَمِيعٌ لَدَيْنَا مُحْضَرُونَ ٤٥٣ فَأَلْيَوْمَ لَا نُظَلُّهُ نَفْسٌ شَيْئًا وَلَا تُجْزَوْنَ إِلَّا مَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ٤٥٤

④①アッラーの唯一性とその僕への寵愛の印の1つは、**われら**がヌーフの方舟でアッラーの被造物を洪水の中から救ったことである。アッラーはその中で、すべてを雌雄の対で運ばれた。

④②アッラーの唯一性とその僕への寵愛の印の1つは、**われら**が人々のために、ヌーフの方舟のような乗り物を創ったことである。

④③**われら**が望むなら、ヌーフの民のようにかれらを溺れさせることもできる。そうなれば、かれらを助ける者はなく、またかれらは救われないのだ。

④④ただし、**われら**の慈悲によって救われ、定められた期限まで享樂を味わせられる者たちは別。それは、かれらがそこに教訓を得て、信仰を持つためである。

④⑤信仰を拒否する多神教徒たちに、こう言われた。来世を思い、その困難を明記せよ。あなたの方の前の来世と、後ろにある現世を意識せよ。そうすればあなた方は慈悲にあずかるだろうと。しかしかれらは抵抗して、何も留意しないで背いたのであった。

④⑥かれらの主から、**かれ**の唯一性と**かれ**だけが崇拝に値するという数々の印が届いても、かれらはそれから背き去った。

④⑦また、アッラーがあなた方に授けたものから施せと言われると、不信仰な人々は言う。もしアッラーが望むなら、**かれ**がその人を養うはずなのに、どうしてわたしたちが養うべきなのか。われわれはアッラーの意思に反することはしない。あなた方は明らかに誤っており、真実から離れている。

④⑧またかれらは復活が虚偽だとして言う。あなた方の言うことが真実なら、この約束の審判はいつなのか。

④⑨かれらは一声の叫びを待っているにすぎず、それは最初の一吹き of ラッパが吹かれる時である。かれらが、売買、耕作、放牧など世俗の業にいそしんでいるとき、それはかれらを突然襲う。

④⑩その時、かれらは遺言することもできず、また家族のところに帰ることもできない。そして世俗の業にいそしむつつ、生命を落とすのである。

④⑪そしてラッパが再び吹かれると、かれらは墓場から出て、かれらの主の御元に急ぐ。それは清算と報いのためである。
④⑫かれらは悔やんで言う。ああ、情けない。わたしたちを墓場から呼び起こしたのは誰だ？かれらはそれに対する回答を得るだろう。これはアッラーが約束したことであり、間違いなく起こることだ。使徒たちは主からのメッセージとして、真実を語ったのである。
④⑬ただ二回目のラッパが鳴り響けば、かれらはひとり残らず**われら**の前に招集される。それが復活の日にかかることである。
④⑭その最後の審判の日、誰も不当な扱いを受けず、あなた方は自分の行なってきたことに対して、悪を増やし、善を減少させられることはない。この世でしてきたことについて、十全の報いを受けるのである。

本諸節の功德:

- アッラーの僕に対する一つの教育法として、宗教と現世に関してかれらを益する種々の印を配置したということがある。
- アッラーは僕に力を与えて、その命令を実行し禁則を守る能力を賦与された。その指示に従わないのであれば、それは自らの選択によるものである。
- 復活に際しては、信仰する僕が想像もしていなかったような主の慈悲が降りてくるものだ。

إِنَّ أَصْحَابَ الْجَنَّةِ الْيَوْمَ فِي شُغْلٍ فَكَّهُونَ ﴿٥٥﴾ هُمْ وَأَزْوَاجُهُمْ فِي ظِلِّ عَلَى الْأَرَائِكِ مُتَكَبِّونَ ﴿٥٦﴾ لَهُمْ فِيهَا فَاكِهَةٌ وَلَهُمْ مَا يَدَّعُونَ ﴿٥٧﴾ سَلَامٌ قَوْلًا مِنْ رَبِّ رَحِيمٍ ﴿٥٨﴾ وَأَمْتَزُوا الْيَوْمَ أَيُّهَا الْمُجْرِمُونَ ﴿٥٩﴾ أَلَمْ أَعْهَدْ إِلَيْكُمْ بِبَنِي آدَمَ أَنْ لَا تَعْبُدُوا الشَّيْطَانَ إِنَّهُ لَكُمْ عَدُوٌّ مُبِينٌ ﴿٦٠﴾ وَإِنْ أَعْبُدُونِي هَذَا صِرَاطٌ مُسْتَقِيمٌ ﴿٦١﴾ وَلَقَدْ أَضَلَّ مِنْكُمْ جِبِلًّا كَثِيرًا أَفَلَمْ تَكُونُوا تَعْقِلُونَ ﴿٦٢﴾ هَذِهِ جَهَنَّمُ الَّتِي كُنْتُمْ تُوعَدُونَ ﴿٦٣﴾ أَصَلَوْهَا الْيَوْمَ بِمَا كُنْتُمْ تَكْفُرُونَ ﴿٦٤﴾ الْيَوْمَ نَخْتِمُ عَلَى أَفْوَاهِهِمْ وَتُكَلِّمُنَا أَيْدِيهِمْ وَتَشْهَدُ أَرْجُلُهُمْ بِمَا كَانُوا يَكْسِبُونَ ﴿٦٥﴾ وَلَوْ نَشَاءُ لَطَمَسْنَا عَلَى أَعْيُنِهِمْ فَاسْتَبَقُوا الصِّرَاطَ فَأَنَّى يُبْصِرُونَ ﴿٦٦﴾ وَلَوْ نَشَاءُ لَمَسَخْنَاهُمْ عَلَى مَكَانَتِهِمْ فَمَا اسْتَطَعُوا مُضِيًّا وَلَا يَرْجِعُونَ ﴿٦٧﴾ وَمَنْ نَعْمِرْهُ نَكْسِمْهُ فِي الْخَلْقِ أَفَلَا يَعْقِلُونَ ﴿٦٨﴾ وَمَا عَآمَتْنَاهُ الشَّعْرَ وَمَا يَنْبَغِي لَهُ إِنْ هُوَ إِلَّا ذِكْرٌ وَقُرْءَانٌ مُبِينٌ ﴿٦٩﴾ لِيُنذِرَ مَنْ كَانَ حَيًّا وَيَحَقِّقَ الْقَوْلَ عَلَى الْكَافِرِينَ ﴿٧٠﴾

الجزء
الثالث
23

● 確かに樂園の仲間たちは、この日、喜びに忙殺される。他の人のことを考える暇はなく、永遠の恵みと途方もない成功を目にするのである。

● かれらはその配偶者たちと、木陰の寝床によりかかっている。

● そこでかれらには、ブドウ、イチジク、ザクロといった果実やかれらが望むものであれば、どんな恵みも与えられる。

● こういったこと以上に、平安あれ、との言葉も、慈悲深い主からある。その言葉を聞いた時には、あらゆる側面から彼らは平安と安全を得ることとなる。その言葉は、あらゆる挨拶を超越したものである。

● 復活の日には多神教徒たちは言われる。罪人たちよ、今日あなた方は信者からは離れて控えていよ。かれらとの報奨の違いはあまりに大きく、またかれらの特性との違いも大きい。

● アーダムの子孫よ、不信仰を抱いて罪をなして、悪魔に仕えてはならないと、われは使徒たちを通じて、あなた方に命令した。悪魔はあなた方の公然の敵である。理性ある人がどうして敵対心をあらわにした者に対して、従うことができるのか。

● アーダムの子孫たちよ、あなた方はわれだけに仕えよ。そして何もかも並置してはならないのだ。それこそが正しい道である。それがわれの喜びであり、そうして樂園に入ることができるのだ。しかしこの点については、あなた方はわれの助言と命令に従わなかった。

● 確かに悪魔は、あなた方の大部分を迷わせた。どうしてあなた方は理性をもって悟らなかったのか。そして主に従いかれのみを崇拜し、明らかな敵である悪魔に従わずにおかなかったのか。

● これはあなた方に、現世の不信仰に対して、約束されていた地獄である。それは幽玄界の事柄であるが、今日はそれを自分の目で見ることができる。

● あなた方は信仰を拒否してきたので、今日以降、永遠にそこで焼かれるがよい。

● その日、われらはかれらの口を封じる。そうするとかれらの不信仰や罪を否定することはできなくなり、その代わりその手がわれらにその所業を語り、かれらの足はかれらが歩いて稼いだことを立証するのである。

● われらが望むなら、かれらの口封じをしたように、両目を盲目にもできる。かれらは道を先んじて樂園に行こうとするが、どうして視力なしにそれができるのか。

● われらが望むなら、かれらをその場所に変形して、座らせることもできる。そうなれば、かれらは進むことも戻ることもできない。

● 誰でもわれらが長寿させる人には、われらは創造を逆転し、弱い時代に戻せるのだ。それでもかれらは、現世は永劫ではなく、不死ではないことが分らないのか。来世こそは、永久である。

● われらはムハンマド(平安を)に、詩を教えなかったし、またかれは詩人にふさわしくなかった。それはかれの天性ではなかったし、その性格上必要としなかった。かれに教えたのは訓示であり、思慮ある人々のための明瞭なクルアーンである。それは詩ではないのだ。

● クルアーンは命あり、理解ある者のためであり、かれらがそれから益を受けるのだ。またそれは、不信仰者に対しては口実を与えることなく警告をあらわにし、懲罰を与えるためである。

本諸節の功德:

● 樂園の人々は、心楽ませ、目を喜ばせ、望み通りのあらゆるものによって、喜悅している。

● 心ある人とは、クルアーンで清められ、それにより知識を増加し、(正しい)行為を増す人である。

● 復活の日には、人の身体部位が(その人の所業を)立証する。

أَوَلَمْ يَرَوْا أَنَّا خَلَقْنَا لَهُمْ مِنَّا عَمَلَكَ أَيِّدِنَا أَنْعَمًا فُهِمَ لَهَا
 مَلِكُونَ ﴿٧١﴾ وَذَلَّلْنَاهَا لَهُمْ فَمِنْهَا رَكُوبُهُمْ وَمِنْهَا يَأْكُلُونَ
 ﴿٧٢﴾ وَلَهُمْ فِيهَا مَنَافِعُ وَمَشَارِبٌ أَفَلَا يَشْكُرُونَ ﴿٧٣﴾ وَاتَّخَذُوا
 مِن دُونِ اللَّهِ آلِهَةً لَّعَلَّهُم يُنصَرُونَ ﴿٧٤﴾ لَا يَسْتَطِيعُونَ
 نَصْرَهُمْ وَهُمْ لَهُمْ جُنْدٌ مُّحَضَّرُونَ ﴿٧٥﴾ فَلَا يَحْزَنُكَ قَوْلُهُمْ
 إِنَّا نَعْلَمُ مَا يُسِرُّونَ وَمَا يُعْلِنُونَ ﴿٧٦﴾ أَوَلَمْ يَرِ الْإِنْسَانُ أَنَّا
 خَلَقْنَاهُ مِن نُّطْفَةٍ فَإِذَا هُوَ خَصِيمٌ مُّبِينٌ ﴿٧٧﴾ وَضَرَبَ لَنَا
 مَثَلًا وَلَيْسَ خَلْقَهُ ذَاكَ مِنَ الْبُحْيِ الْعَظِيمِ وَهِيَ رَمِيمٌ ﴿٧٨﴾
 قُلْ يُحْيِيهَا الَّذِي أَنشَأَهَا أَوَّلَ مَرَّةٍ وَهُوَ بِكُلِّ خَلْقٍ عَلِيمٌ ﴿٧٩﴾
 الَّذِي جَعَلَ لَكُم مِّنَ الشَّجَرِ الْأَخْضَرِ نَارًا فَإِذَا أَنْتُمْ
 مِنْهُ نُوقَدُونَ ﴿٨٠﴾ أَوَلَيْسَ الَّذِي خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ
 بِقَدِيرٍ عَلَىٰ أَن يَخْلُقَ مِثْلَهُمْ بَلَىٰ وَهُوَ الْخَلَّاقُ الْعَلِيمُ ﴿٨١﴾
 إِنَّمَا أَمْرُهُ إِذَا أَرَادَ شَيْئًا أَن يَقُولَ لَهُ كُنْ فَيَكُونُ ﴿٨٢﴾
 فَسُبْحَنَ الَّذِي يَبْدِئُ مَلَكُوتُ كُلِّ شَيْءٍ وَإِلَيْهِ تُرْجَعُونَ ﴿٨٣﴾

سُورَةُ الصَّافَّاتِ

٧٩

٧٦

〔79〕ムハンマドよ、かれらに言え。最初に骨を創った方が、かれらを生き返らせるのだ。初めに創造したのだから、それらに命を再び与えることは不可能ではない。かれ(賛美あれ)はすべての創造物を知り尽くして、隠されるものはないのだ。

〔80〕かれは緑の木から火を生じさせる。あなた方は木から、火を起こすことができるのだ。緑の木の湿りと起こされた火という対立する二つを一つのものから生じさせるお方は、死者を復活させることができるのである。

〔81〕壮大な諸天と地を創造したかれが、死者を蘇らせることはできないのか。いうまでもなく、それは可能なのだ。かれこそは、すべての創造主であり、かれこそは全知者である。

〔82〕かれが何かを創造しようすると、有れという命令で、それは有るのだ。命を与えようとするかれの意図は、死ももたらし、同様にそれを復活もするということでもある。

〔83〕その御手ですべてを支配するかれにこそ、すべての賛美あれ。多神教徒たちが非難するような不可能なことはない。すべてを超越する権威があり、望むままに行動される。すべての鍵はその手にあり、来世ではあなた方はかれの御元に帰される。それはあなた方の所業への報奨のためである。

本諸節の功德:

●アッラーの人々への寵愛の一つに、家畜を授けて、人が必要に応じて利用することができることがある。それは乗ることや、肉や乳を消費することである。

●復活の日の証拠の豊かさ、不信仰者のそれに対する拒否。

●アッラーの特性の一つは、その知識がすべてを包み込んでいるということ。すべての被造物について、すべての状況とあらゆる時点においてご存知である。地中にある遺体の腐敗したのやそうでないものもご存じである。隠されているものも、表れているものも、ご存じなのだ。

〔71〕かれらは見ないのか。われらがかれらのために創った家畜を。かれらは必要に応じて、それを活用している。

〔72〕われらは家畜をかれらに従わせた。かれらはある種のものに乗ったり、荷物を運んだりする。そして別の種類については、その肉を食べる。

〔73〕また、乗ったり食べたりする他にも、かれらのために役に立つ羊、ラクダ、山羊の毛があり、それではかれらは家具や衣類を作る。また乳もある。それでもかれらは、こういった恩寵を賜るアッラーに感謝しないのか。

〔74〕マッカの多神教徒たちはアッラーを差しおいて、他に神々を選び、何とか助けられようとする。

〔75〕それらの神々はそもそも助けられず、ましてアッラーに代えて祈る人々を助けることはない。それらの神々を崇拜した者たちは偶像と共に懲罰にあい、しかし互いに無実を訴えることとなる。

〔76〕使徒よ、あなたはかれらの言うことで、悲しんではいけない。あなたは使徒として送られたのではないとか、あるいはあなたは詩人であるとか、中傷に惑わされることはないのだ。確かにわれらは、かれらの隠すことも現わすことも知っており、それに報いるであろう。

〔77〕復活を拒否する人間は考えないのか。われらが一滴の液体からかれを創ったことを。それからかれは異なる段階を経て、誕生し、発達した。それなのにかれは公然と議論し論争して歯向っている。熟慮して、復活は可能であるとの結論を得ることがないのか。

〔78〕また、かれは不注意で無知で、われらに例えを示すけれど、かれ自身の無からの創造を忘れてる。かれは言う。誰が朽ち果てた骨に命を与えることができるのか。

本章の趣旨:

多神教徒たちがアッラーに向ける中傷を遠ざけて、アッラーの崇高さを称え、かれらの天使とジンについての主張が誤っていることを明らかにする。

説明:

- ① われは崇拝のために整列する天使たちにかけて誓う。
 ② またわれは雨雲を追立てて、降雨を望む所へそれを送る天使たちにかけて誓う。
 ③ クルアーンを読み聞かせる天使たちにかけて誓う。
 ④ 人々よ、確かにあなた方の神は唯一で、何の同類もない。それがアッラーだ。
 ⑤ われは諸天と地、そしてその間にあるすべてのものの主、また一年中の日昇と日没を司る主である。
 ⑥ 真にわれらは、見た目に輝く宝石のような星々に地に近い下層の天を飾り、
 ⑦ 下層の天をアッラーに逆らうすべての悪魔に対する守りとした。星で撃ち落とすために。
 ⑧ かれら悪魔たちはどこからでも星に撃たれ、アッラーや天使たちの最高会議を盗聴できない。
 ⑨ 盗聴しないように、撃退される。かれらには来世で、永久の苦痛という懲罰があるのだ。
 ⑩ 地上の人々がまだ聞いたことのないことを、少し盗聴した悪魔がいても、光り輝く流星が追跡し、焼き尽くすのだ。しかしその前に情報を周囲に漏らす悪魔もいるが、時にはそれが占い師に届くので、かれらはそれで何百の嘘を並べ立てることとなる。
 ⑪ ムハンマドよ、マッカの多神教徒たちに問え。かれらはわれらが創った天地や天使などよりも強いのか。確かにわれらは粘り気のある土でかれら人間を創った。そんなに弱い原料から創造されたのに、復活を否定するとは何事か。

⑫ ムハンマドよ、あなたはアッラーの創造やその運営振りに驚くと同時に、多神教徒たちが復活を嘘よばわりすることに驚く。かれらはそれを強く拒否して笑い草にしている。

⑬ 警告されても、かれらが助言を受け入れないのは、その心の硬さのためである。

⑭ また、かれらは預言者(平安を)の真実の印を見ても、過剰に驚いて、笑い草にするばかり。

⑮ そして、かれらは言う。これは明らかな魔術に違いない。

⑯ わたしたちが死んで、塵になり、バラバラになってから、生きて復活するのだろうか。それはあまりに(現実からは)遠い。

⑰ 遠い祖先たちも、復活されるのだろうか。

⑱ ムハンマドよ、言え。その通り。あなた方は塵となりバラバラになってから復活させられるのだ。祖先も同様だ。卑しめられた状態で復活するのだ。

⑲ それは、ただ1回のラッパを吹く音だ(2回目当たる)。突然に審判の日の恐怖に直面し、アッラーのお裁きを待つこととなる。

⑳ それを拒否する多神教徒たちは、こう言う。ああ情けない、これが現世でしてきたことの報いの日なのかと。

㉑ これはあなた方が現世では拒否してきた、僕たちの審判の日だ。

㉒ ㉓ その日、天使たちに言われる。不正な人々や、それと同類の人々を集めよ。またかれらが崇拝していた神々を集めよ。アッラーを差し置いて崇拝していた神々を。かれら全員をその住まいとなる地獄の火の方向に連れて行け。

㉔ かれらをすぐに地獄に入れないで、話を聞くために留めおくがよい。かれらは尋問される。それから地獄の火へと追い払うのだ。

本諸節の功德:

●アッラーは下層の天を星で飾るように命じられた。それにはいろいろの利点があるからだが、例えば、装飾となる。そして謀反を起こす悪魔からの防護になる。

●楽園に入ってくる人々が渡る地獄にかけられた橋は、スィラートと呼ばれている。そこで地獄行きの人々は足を滑らせて落ちるのだ。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

وَالصَّفَّاتِ صَفًّا ① فَالْزَّجَرَاتِ زَجْرًا ② فَالتَّالِيَاتِ ذِكْرًا ③ إِنَّ
إِلَهُكُمْ لَوَاحِدٌ ④ رَبُّ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا وَرَبُّ
الْمَشْرِقِ ⑤ إِنَّا زَيْنَا السَّمَاءَ الدُّنْيَا بِزِينَةِ الْكَوَاكِبِ ⑥ وَحَفَظْنَا
مِنْ كُلِّ شَيْطَانٍ مَّارِدٍ ⑦ لَا يَسْمَعُونَ إِلَى الْمَلَأِ الْأَعْلَى وَيُقَذَّفُونَ
مِنْ كُلِّ جَانِبٍ ⑧ دُحُورًا وَلَهُمْ عَذَابٌ وَاصِبٌ ⑨ إِلَّا مَنْ خَطِفَ
الْخُطْفَةَ فَاتَّبَعَهُ وَشِهَابٌ ثَاقِبٌ ⑩ فَاسْتَفْتِهِمْ أَهُمْ أَشَدُّ خَلْقًا أَمْ
مَنْ خَلَقْنَا إِنَّا خَلَقْنَاهُمْ مِنْ طِينٍ لَازِبٍ ⑪ بَلْ عَجِبْتَ وَيَسْخَرُونَ
⑫ وَإِذَا ذُكِّرُوا لَا يَذْكُرُونَ ⑬ وَإِذَا أُرُوا آيَةً يَسْتَسْخَرُونَ ⑭
وَقَالُوا إِن هَذَا إِلَّا أَسْحَرٌ مُبِينٌ ⑮ أَلَمْ نَدَامُنَا وَكُنَّا رَاكِبًا وَعِظَمًا
أَمْ نَأْتِمُرُ بِالْمَعْبُوتِينَ ⑯ أَوْءَاوُنَا الْأَوْثُونَ ⑰ قُلْ نَعَمْ وَأَنْتُمْ دَاخِرُونَ
⑱ فَإِنَّمَا هِيَ زَجْرَةٌ وَاحِدَةٌ فَإِذَا هُمْ يَنْظُرُونَ ⑲ وَقَالُوا لَئِنْ كُنَّا
هَذَا يَوْمُ الدِّينِ ⑳ هَذَا يَوْمُ الْفَصْلِ الَّذِي كُنْتُمْ بِهِ تُكَذِّبُونَ ㉑
* أَحْشَرُوا الَّذِينَ ظَلَمُوا أَرْجَاهُمْ وَمَا كَانُوا يَعْبُدُونَ ㉒ مِنْ دُونِ
اللَّهِ فَأَهْدُوهُمْ إِلَى صِرَاطِ الْجَحِيمِ ㉓ وَقِفُوهُمْ إِنَّهُمْ مَسْئُولُونَ ㉔

مَا كُنْزٌ لَّا تَنَاصَرُونَ ﴿٣٥﴾ بَلْ هُمْ أَلْيَوْمَ مُسْتَسْلِمُونَ ﴿٣٦﴾ وَأَقْبَلَ بَعْضُهُمْ
 عَلَىٰ بَعْضٍ يَتَسَاءَلُونَ ﴿٣٧﴾ قَالُوا إِنَّا كُنْزٌ تَأْتُونَنَا عَنِ الْيَمِينِ ﴿٣٨﴾
 قَالُوا بَلْ لَّمْ تَكُونُوا مُؤْمِنِينَ ﴿٣٩﴾ وَمَا كَانَ لَنَا عَلَيْكُمْ مِنْ سُلْطَانٍ
 بَلْ كُنْزٌ قَوْمَ طَاجِينَ ﴿٤٠﴾ فَحَقَّ عَلَيْنَا قَوْلُ رَبِّنَا إِنَّا لَذَائِقُونَ ﴿٤١﴾
 فَأَعْوَبْنَاكُمْ أَنَا كَنَّاغُوبِينَ ﴿٤٢﴾ فَإِنَّهُمْ يَوْمَئِذٍ فِي الْعَذَابِ مُشْتَرِكُونَ
 ﴿٤٣﴾ إِنَّا كَذَلِكَ نَفْعَلُ بِالْمُجْرِمِينَ ﴿٤٤﴾ إِنَّهُمْ كَانُوا إِذَا قِيلَ لَهُمْ
 لَا إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ يَسْتَكْبِرُونَ ﴿٤٥﴾ وَيَقُولُونَ إِنَّا لَنَارِكُوا هَٰئِلَآئِنَا
 لَشَاعِرٌ مِّثْلُونِ ﴿٤٦﴾ بَلْ جَاءَ بِالْحَقِّ وَصَدَّقَ الْمُرْسَلِينَ ﴿٤٧﴾ إِنَّا كُنْزٌ
 لَذَائِقُوا الْعَذَابِ الْأَلِيمِ ﴿٤٨﴾ وَمَا يُخْزَوْنَ إِلَّا مَا كُنْتُمْ تَعْمَلُونَ ﴿٤٩﴾
 إِلَّا عِبَادَ اللَّهِ الْمُخْلَصِينَ ﴿٥٠﴾ أُولَٰئِكَ لَهُمْ رِزْقٌ مَّعْلُومٌ ﴿٥١﴾
 فَوَكَرَهُمْ كُرْمُؤُنَ ﴿٥٢﴾ فِي جَنَّتِ التَّعِيمِ ﴿٥٣﴾ عَلَىٰ سُرُرٍ مَّتَقِيلِينَ ﴿٥٤﴾
 يُطَافُ عَلَيْهِمْ بِكَأْسٍ مِنْ مَّعِينٍ ﴿٥٥﴾ بِيَضَاءٍ لَذَّةٍ لِلشَّارِبِينَ ﴿٥٦﴾
 لَا فِيهَا غَوْلٌ وَلَا هُمْ عَنْهَا يُنْزَفُونَ ﴿٥٧﴾ وَعِنْدَهُمْ قَاصِرَاتُ
 الطَّرْفِ عِينٌ ﴿٥٨﴾ كَأَنَّهُنَّ بَيْضٌ مَّكْنُونٌ ﴿٥٩﴾ فَأَقْبَلَ بَعْضُهُمْ عَلَىٰ
 بَعْضٍ يَتَسَاءَلُونَ ﴿٦٠﴾ قَالَ قَائِلٌ مِنْهُمْ إِنِّي كَانَ لِي قَرِينٌ ﴿٦١﴾

〔35〕かれら(多神教徒たち)は非難される。あなた方はどうして現世でしていたように助け合わないのか。偶像が助けてくれると主張していたのに、と。

〔36〕いや、今日ばかりは、かれらもアッラーの審判に降伏する。そして蔑まれる。互いに助け合わないのは、その能力もなく、策もないためである。

〔37〕かれらは互いに近づき、責任を擦り付け、議論する。しかしそれは無駄である。

〔38〕かれらに従った人々は言う。確かに、先達の人々は教えと真実に関して我々に近づいて、不信仰と多神の教えと罪深い行いを装飾し、一方では使徒たちがもたらした真実からは遠ざけた。

〔39〕これらの指導者たちは言う。いや、あなた方が言うのとは違って、あなた方自身が信者ではなかったのだ。あなた方は拒否していたのだ。

〔40〕また、わたしたちはあなた方に不信仰と多神の教えと罪深い行いを植え付けるような権能もない。そうではなく、あなた方自身がすでに叛逆の民で、逸脱していたのだ。われわれがあなた方を誤って導いたのではない。

〔41〕それで主の裁決がわたしたちとあなた方に下される。「われは地獄をあなた方と、あなた方に従った人全員で満たすのだ。」(サード章:85)そこでわたしたちは、しかたなく苦痛を味わうのである。

〔42〕わたしたちはあなた方を不信仰と逸脱へと招いた。わたしたちは導きから迷っていたのだ。

〔43〕こうして審判の日、かれらは指導者たちと共に罰を受ける。

〔44〕このように、われらは罪深い人々を指導者たちと共に処分するのだ。各自その値するところに従って、懲罰を味わうのだ。

〔45〕確かに、かれらは現世でアッラーの他に崇拝すべき神はいないと告げられると、高慢になったのであった。かれらはその義務を励行しないで、それに反することをしてきた。呼びかけには答えずに、従順にならずに、真実から離れて、傲慢さを見せてきた。

〔46〕そしてかれらは不信仰を正当化して言った。気狂い詩人のために、わたしたちの神々を捨ててなるものかと。それはアッラーの使徒(平安を)を指していたのであった。

〔47〕かれらは大きな間違いを犯していた。アッラーの使徒(平安を)は、気狂いでもない詩人でもなかった。アッラーの唯一性とその使徒に従うことを呼び掛け、クルアーンをもたらした。かれは一神教と来世の確認という過去の使徒たちの教えを確認したのであった。以前の教えと矛盾をきたしたことはなかったのだ。

〔48〕確かに、あなた方は審判の日には、不信仰と使徒を拒否したことによって、厳しい罰を味わうことになる。

〔49〕多神教徒たちよ、あなた方は自分たちがしてきた不信仰と罪によってでしか、報復されることはない。

〔50〕だがアッラーの忠実な僕たちで、礼拝を怠らない人々は別である。かれらは安全で、罰の心配はない。

〔51〕それらの誠実な僕にはアッラーからの特別の糧があり、それは清浄さ、美、永遠なことで知られているものだ。

〔52〕それまでは知らなかったほどの多様で美味な果実もあり、それにもまして位階は上昇し、アッラーの尊顔を拝することができる。

〔53〕それらは永遠の安楽の園の中での永劫の恵みであり、なくなることはない。

〔54〕寝床の上で向かい合い、互いに同胞に会うことを喜んでいる。

〔55〕泉からくんだ流れる水のような酒の杯は、かれらに回され、

〔56〕真白で、飲む人に最高に美味。

〔57〕これは頭痛も酔いも起こさない。飲む人の心身の安全は守られている。

〔58〕またかれらの側には、大きい目を伏せがちにした乙女がいる。夫以外を見つめることはない。

〔59〕かの女らは鳥の卵のように黄色みを帯びた白色の肌で、どのような手からも守られている。

〔60〕やがてかれらは、互いに出自や現世での出来事を尋ね合う。

〔61〕かれら信者のひとりが言う。わたしに復活を否定する同僚がいた。

本諸節の功德:

●不信仰者の懲罰の理由は、悪行であるが、それは多神の教えと、罪を犯すことである(特にみだらな行為)。

●楽園の人々の一つの特典は、互いに集まり会うことができるということ。これは完璧な喜びと言えよう。

يَقُولُ أَتَيْكَ لَمِنَ الْمُصَدِّقِينَ ﴿٥٦﴾ إِذْ آمَنَّا وَكُنَّا تُرَابًا وَعِظَامًا ۖ إِنَّا
لَمَذِينُونَ ﴿٥٧﴾ قَالَ هَلْ أَنْتُمْ مُطْلَعُونَ ﴿٥٨﴾ فَأَطَاعَ قَرَأَهُ فِي سَوَاءِ
الْجَحِيمِ ﴿٥٩﴾ قَالَ تَاللَّهِ إِن كِدْتَ لَتُرْدِينَ ﴿٦٠﴾ وَلَوْلَا نِعْمَةُ رَبِّي
لَكُنْتُ مِنَ الْمُحْضَرِينَ ﴿٦١﴾ أَفَمَا تَحْنُ بِمَيِّتِينَ ﴿٦٢﴾ إِلَّا مَوْتَتَنَا
الْأُولَىٰ وَمَا تَحْنُ بِمُعَدِّيْنَ ﴿٦٣﴾ إِنَّ هَذَا لَهُوَ الْفَوْزُ الْعَظِيمُ ﴿٦٤﴾
لِمِثْلِ هَذَا فَلْيَعْمَلِ الْعَامِلُونَ ﴿٦٥﴾ أَذَلِكَ خَيْرٌ لَّكَ أَمْ شَجَرَةُ
الزَّيْتُونِ ﴿٦٦﴾ إِنَّا جَعَلْنَاهَا فِتْنَةً لِلظَّالِمِينَ ﴿٦٧﴾ إِنَّمَا شَجَرَةُ
تَخْرُجُ فِي أَصْلِ الْجَحِيمِ ﴿٦٨﴾ طَلْعُهَا كَأَنَّهُ زُرُّوسُ الشَّيْطَانِ
﴿٦٩﴾ فَإِنَّهُمْ لَا يَكُونُ مِنْهَا فَايُوتُونَ مِنْهَا الْبُطُونَ ﴿٧٠﴾ ثُبُورٌ لَّهُمْ
عَلَيْهَا شَوْبًا مِّنْ حَمِيمٍ ﴿٧١﴾ ثُمَّ إِنِّ رَجَعْتُهُمْ إِلَى الْجَحِيمِ ﴿٧٢﴾
إِنَّهُمْ لَفُؤَاءُ آبَاءِهِمْ ضَالِّينَ ﴿٧٣﴾ فَهُمْ عَلَىٰ آثَرِهِمْ يَهْرَعُونَ ﴿٧٤﴾
وَلَقَدْ ضَلَّ قَبْلَهُمْ أَكْثَرُ الْأَوَّلِينَ ﴿٧٥﴾ وَلَقَدْ أَرْسَلْنَا فِيهِمْ
مُّنذِرِينَ ﴿٧٦﴾ فَأَنْظَرُوا كَيْفَ كَانَ عَاقِبَةُ الْمُنذِرِينَ ﴿٧٧﴾
إِلَّا عِبَادَ اللَّهِ الْمُخْلَصِينَ ﴿٧٨﴾ وَلَقَدْ نَادَيْنَا نُوْحَ فَلْنِعْمَ
الْمُجِيبُونَ ﴿٧٩﴾ وَنَحْنُ بِأَهْلِهِ وَمِنَ الْكَرْبِ الْعَظِيمِ ﴿٨٠﴾

〔52〕かれは馬鹿にして言った。あなたまで復活を信じているのか。

〔53〕わたしたちが死んで土と腐った骨になってから、復活して裁かれるのかと。

〔54〕そこでそのひとりの信者は樂園で言った。復活を否定していた人々の結末を見るために、地獄を見下ろしてみよう。

〔55〕そこでかれらが見下ろすと、地獄の火の真ん中に復活を拒否していた連れの姿が見えた。

〔56〕その信者は言った。アッラーにかけて、あなたはもう少しでわたしを破滅させるところだった。

〔57〕もしわたしの主の信仰への導きと成功という恩寵がなかったなら、わたしは必ず地獄に引き立てられた人々の中にいただろう。

〔58〕わたしたち樂園の仲間はずめことはない。

〔59〕最初の死だけで、永遠に樂園で生き続けるのだ。そして不信仰者たちのように、わたしたちが罰を受けることはない。

〔60〕実に樂園に入り地獄の火を免れるという主の授けられた報いは、比較できないような大勝利だ。

〔61〕このようなことのために、誰でも務めるべきだ。これは収益の大きい取引だ。

〔62〕アッラーが信者に授けた糧は、クルアーンで悪く言われている地獄のザクームの木よりも、はるかに高位で誉めがあるのではないか。その木は、不信仰者の食べ物で、栄養を与えることもなく飢えを満たすこともない。

〔63〕われらはこの木を、不正を行なう人々への試みとした。かれらは言う。火は木を食べてしまうから、地獄で育つことは不可能だ。

〔64〕ザクームの木、それは地獄の火の底に生える木で、醜いものだ。

〔65〕その実は悪魔の頭のように醜く、その姿は中身の醜さでもあり、味わいは吐き気をもよおすものだ。

〔66〕かれらはその苦くて醜い果実を食べて、腹をそれで一杯にする。

〔67〕さらにかれらは、沸騰する湯を飲む。

〔68〕それから地獄の懲罰に帰り着く。次々と処罰にあわせられる。

〔69〕かれらは先祖の迷っていたのを知りながら、盲目的に真実の証拠もないままにそれに従ったのだ。

〔70〕その逸脱の足跡を急いで追った。

〔71〕昔の大半の先祖たちも、確かに迷っていた。だから使徒よ、あなたが送られた民は、初めて迷った人々ではないのだ。

〔72〕だがわれらは、かれらの中からアッラーの懲罰を警告するために、使徒たちを遣わした。しかしかれらは不信仰のままであった。

〔73〕使徒よ、見るがいい。警告された人々の最後がどうであったのかを。本当に不信仰と使徒を拒否したことで、かれらは永遠の地獄の火の中にはいるのだ。

〔74〕ただし、アッラーの忠実な僕で、信仰しその唯一性を信じる人々は別だ。不信仰で拒否する連中の結果とは異なって、かれらは懲罰から救われる。

〔75〕かつて預言者ヌーフ(平安を)は拒否する民に関して、われらに嘆願した。それに対してアッラーは、何とすばらしい答え方をしたとか。直ちにその嘆願通りにしたのだ。

〔76〕われらは、かれとその家族と周囲の信者たちを大難から救ったのだ。大洪水から逃れたが、それは不信仰者たちへのものであった。

本諸節の功德:

●樂園入りという糧を得ることは、大成功である。誰しもが目指すべき報奨である。

●地獄の人々の食べるものは、ザクームの木であるが、それは苦くて、嫌な臭いで、飲み込みにくくて痛みを伴う、醜い果実である。

●ヌーフ(平安を)の嘆願にアッラーは答えられて、その民を滅ぼされた。アッラーこそは最良の回答者であり、嘆願するに最善のお方である。

وَجَعَلْنَا ذُرِّيَّتَهُ هُمُ الْبَاقِينَ ﴿٧٧﴾ وَتَرَكْنَا عَلَيْهِ فِي الْآخِرِينَ ﴿٧٨﴾ سَلَامٌ عَلَى نُوحٍ فِي الْعَالَمِينَ ﴿٧٩﴾ إِنَّا كَذَلِكَ نَجْزِي الْمُحْسِنِينَ ﴿٨٠﴾ إِنَّهُ وَمَنْ عِبَادَنَا الْمُؤْمِنِينَ ﴿٨١﴾ ثُمَّ أَعْرَفْنَا الْآخِرِينَ ﴿٨٢﴾ * وَإِنَّ مِنْ شِيعَتِهِ لَإِبْرَاهِيمَ ﴿٨٣﴾ إِذْ جَاءَ رَبَّهُ بِقَلْبٍ سَلِيمٍ ﴿٨٤﴾ إِذْ قَالَ لِأَبِيهِ وَقَوْمِهِ مَاذَا تَعْبُدُونَ ﴿٨٥﴾ أَفَكُفَّاءُ الْهَذَلِ تُدْعُونَ إِلَهُكُمْ إِذْ قَالَ فَمَا ظَنُّكُمْ بِرَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿٨٧﴾ فَظَنَرُ نَظْرَةً فِي النُّجُومِ ﴿٨٨﴾ فَقَالَ إِنِّي سَقِيمٌ ﴿٨٩﴾ فَتَوَلَّوْا عَنْهُ مُدْبِرِينَ ﴿٩٠﴾ فَرَاغَ إِلَى اللَّهِ فَهَيَّجَهُمْ فَقَالَ أَأَتَاكُمْ كُؤُونٌ ﴿٩١﴾ مَا لَكُمْ لَا تَطِيقُونَ ﴿٩٢﴾ فَرَاغَ عَلَيْهِمْ ضَرْبًا بِالْيَمِينِ ﴿٩٣﴾ فَأَقْبَلُوا إِلَيْهِ يَزْفُونَ ﴿٩٤﴾ قَالَ أَعْبُدُونِ مَا تَنْجِتُونَ ﴿٩٥﴾ وَاللَّهُ خَلَقَكُمْ وَمَا تَعْمَلُونَ ﴿٩٦﴾ قَالُوا أَبْنَاؤُا لِرَبِّنَا فَأَنْقُوهُ فِي الْجَحِيمِ ﴿٩٧﴾ فَأَرَادُوا بِهِ كَيْدًا فَجَعَلْنَاهُمُ الْأَسْفَلِينَ ﴿٩٨﴾ وَقَالَ إِنِّي ذَاهِبٌ إِلَى رَبِّي سَمِيعِينَ ﴿٩٩﴾ رَبِّ هَبْ لِي مِنَ الصَّالِحِينَ ﴿١٠٠﴾ فَبَشِّرْهُ بِعَلِيمٍ حَلِيمٍ ﴿١٠١﴾ فَلَمَّا بَلَغَ مَعَهُ السَّعَى قَالَ يَبْنَئِي إِنِّي أَرَى فِي الْمَنَامِ أَنِّي أَذْبَحُكَ فَانْظُرْ مَاذَا تَرَىٰ ﴿١٠٢﴾ قَالَ يَاقَبْتُ أَفْعَلْ مَا تُؤْمَرُ سَتَجِدُنِي إِنْ شَاءَ اللَّهُ مِنَ الصَّابِرِينَ ﴿١٠٣﴾

- ⑦⑦そしてわれらは、かれの家族と信者たちである子孫を生き残らせ、その他の不信仰者たちは沈没させた。
- ⑦⑧またわれらはかれのために、後の諸世代がかれを称えるように、良い称賛として残した。
- ⑦⑨ヌーフに対する後代の悪口から守って、かれを称えて良い評価が残るようにするというのである。
- ⑧①このようにわれらのみを崇拜する正しい行ないの人々に、ヌーフに与えたような報いを受ける。
- ⑧②真にかれは、信心深いわれらの僕であった。
- ⑧③それからわれらは、その他の人々を溺れさせ、誰も救われなかった。
- ⑧④またヌーフと信教を共にする一派の中に、イブラーヒームがいた。かれも一神教を唱えた。
- ⑧⑤かれがアッラーと同列に何も配置せず、疑念を持たない正しい信心をもって、またアッラーへの良い性向をもって、かれの主の元にやって来たことを想起してみよ。
- ⑧⑥自分の父とその偶像崇拜をする一族に向かって言った。アッラーに代えて、あなた方が崇拜するものは何か。
- ⑧⑦アッラーを差し置いて、完全に偽りの神々をあなた方は崇めるのか。
- ⑧⑧すべての世界の主について、あなた方はどう考えるのか。かれがどのような措置を取られると考えるのか。
- ⑧⑨そのときイブラーヒームは星々を一目見て、その民からどうやって抜け出るかを思案した。
- ⑧⑩人々の祭りごとに行かないための口実を述べつつ言った。わたしは病んでしまった。
- ⑧⑪そこで、人々はかれに背を向けて去って行った。
- ⑧⑫そのときかれは、かれらの偶像に向かって、擲擲て言った。あなた方は偶像崇拜者たちが準備したものを食べないのか。
- ⑧⑬あなた方が話さず、質問に答えないとはどういうことか。こんなものをアッラーに代えて祈れるものか。
- ⑧⑭そこでかれは偶像を、壊すつもりで、右手で打った。
- ⑧⑮そのとき人々は、慌ててかれのところにやって来た。
- ⑧⑯するとイブラーヒームはしっかりと批判して言った。あなた方はアッラーに代えて、自分たちが彫刻したものを

崇拜するの。

⑧⑯一方、アッラーは、あなた方の身体も行動も創られる。偶像を作るあなた方の行為も、その一部である。だからかれこそは最もあなた方の崇拜に値する。かれのみを崇めることとし、同列者を配置すべきではないのだ。

⑧⑰人々はかれの明瞭な論旨に言葉を失った。そして暴力に訴えることとし、イブラーヒームをどう処置しようかと相談した。そして言った。かれのために薪を積み、燃え盛る火の中にかれを投げ込むのだ。

⑧⑱かれらはかれに悪い企みを巡らせ、かれを滅ぼすことでかれから救われようとした。しかしわれらはかれらを敗北者として、火を鎮め、安全なものとした。

⑧⑲イブラーヒームは言った。わたしは主の御元に行って、この町の人々を後に残すのだ、そしてアッラーのみを崇拜するのだ。現世と来世で最良のものに、必ずかれはわたしを導くであろう。

⑧⑳わたしの主よ、正しい息子をわたしに授けて、わたしを助け、荒れた異郷の地においてかれをわたしの民の代替として下さい。

⑧㉑それで、われらは忍耐強くなる、男の子の吉報を伝えた。この息子が、イスマーイール(平安)である。

⑧㉒イスマーイールが父イブラーヒームと共に働く年頃になったとき、父親は夢を見たが、預言者の見る夢は啓示の一種である。かれは言った。息子よ、わたしはあなたを犠牲に捧げる夢を見た。さて、あなたはどう考えるのか。かれは言った。わたしの父よ、あなたは命じられたように、わたしを殺してください。もしアッラーが望むなら、あなたはわたしが犠牲になって耐え忍び、アッラーの命令に喜んで従う者であることがお分かりでしょう。

本諸節の功德:

●アッラーのヌーフに対する恩寵の表れ:信者と共にヌーフは洪水から救われた。その子孫は全人類の祖先となった。ヌーフに関しては、好評と称賛が残った。

●アッラーは人の行為を創造されて、人はそれを選択して行う。

●犠牲となるのは、この流れからしてまずはイスマーイール(平安)である。というのは、初めにかれの吉兆があったのであり、その後にイスマーイールの吉兆があったからだ。

●イスマーイールの「もしアッラーが望むなら、あなたはわたしが耐え忍ぶ者であることはお分りでしょう」という言葉は、かれが忍耐できる原因である。というのは、彼は事態をアッラーに委ねたからである。

فَلَمَّا أَسْلَمَا وَقَلَّهِ لِلْجَبِينِ ﴿١٥٦﴾ وَكَذَيْبَتُهُ أَنْ يَتَّبِعَ رَهِيمَ ﴿١٥٧﴾
 قَدْ صَدَّقَتْ الرُّءْيَا إِنَّا كَذَلِكَ نَجْزِي الْمُحْسِنِينَ ﴿١٥٨﴾
 هَذَا هُوَ الْبَلَاءُ الْمُبِينُ ﴿١٥٩﴾ وَقَدْ يَنْتَهِ بِذِيحِ عَظِيمٍ ﴿١٦٠﴾ وَتَرْكَا
 عَلَيْهِ فِي الْآخِرِينَ ﴿١٦١﴾ سَلَّمَ عَلَى إِبْرَاهِيمَ ﴿١٦٢﴾ كَذَلِكَ نَجْزِي
 الْمُحْسِنِينَ ﴿١٦٣﴾ إِنَّهُ وَمَنْ عِبَادِنَا الْمُؤْمِنِينَ ﴿١٦٤﴾ وَبَشَّرْنَاهُ
 بِإِسْحَاقَ نَبِيًّا قَدْ صَدَّقَ عَلَيْهِ ﴿١٦٥﴾ وَتَرْكَا عَلَيْهِ وَعَلَى إِسْحَاقَ
 وَمَنْ دُرِّيَّتَهُمَا مُحْسِنٌ وَطَالِ لِنَفْسِهِ مُبِينٌ ﴿١٦٦﴾ وَلَقَدْ مَنَنَّا
 عَلَى مُوسَى وَهَارُونَ ﴿١٦٧﴾ وَنَجَّيْنَاهُمَا وَقَوْمَهُمَا مِنَ الْكَرْبِ
 الْعَظِيمِ ﴿١٦٨﴾ وَنَصَرْنَاهُمْ فَكَانُوا هُمُ الْغَالِبِينَ ﴿١٦٩﴾ وَآتَيْنَاهُمَا
 الْكِتَابَ الْمُسْتَقِيمَ ﴿١٧٠﴾ وَهَدَيْنَاهُمَا الصِّرَاطَ الْمُسْتَقِيمَ
 ﴿١٧١﴾ وَتَرْكْنَا عَلَيْهِمَا فِي الْآخِرِينَ ﴿١٧٢﴾ سَلَّمَ عَلَى مُوسَى
 وَهَارُونَ ﴿١٧٣﴾ إِنَّا كَذَلِكَ نَجْزِي الْمُحْسِنِينَ ﴿١٧٤﴾ إِنَّهُمَا
 مِنْ عِبَادِنَا الْمُؤْمِنِينَ ﴿١٧٥﴾ وَإِنَّ إِلْيَاسَ لَمِنَ الْمُرْسَلِينَ ﴿١٧٦﴾
 إِذْ قَالَ لِقَوْمِهِ أَلَا تَتَّقُونَ ﴿١٧٧﴾ أَتَدْعُونَ بَعْلًا وَتَذَرُونَ أَحْسَنَ
 الْخَالِقِينَ ﴿١٧٨﴾ اللَّهُ رَبُّكُمْ وَرَبَّ آبَائِكُمُ الْأَوَّلِينَ ﴿١٧٩﴾

- そこでかれら二人は服従して、イブラーヒームが犠牲にするために息子の額を地面につけさせたとき、
 ●**われら**は告げた。イブラーヒームよ、
 ●確かに、あなたはあの夢を実践した。だから**われら**は、このような大変な試練から解放する。また正しい行ないをする人々は、かれらの試練や困難から解放して、報いとする。
 ●確かにこれは、イブラーヒームにとってその信心の明らかな試みであった。
 ●**われら**は大きな犠牲として巨大な羊でイスマーイールに代え、
 ●**われら**はかれのために、後の諸世代の間に彼への称賛を残した。
 ●イブラーヒームを称え、かれに対する害悪からの安全を祈るために。
 ●このように、**われら**は正しい行ないをする人々に報いる。
 ●真にかれは**われら**に従う、信心深い僕であった。
 ●また**われら**は、正しい人のひとりで預言者である、イスハークの吉報をかれ(イブラーヒーム)に伝えた。それはイスマーイールを犠牲にするという決心をしたことへの、報いでもあった。
 ●そして**われら**は、かれとイスハークを祝福し、多くの糧を授けた。その一つは、多くの子孫であった。かれらの子孫の中には正しい行ないをする者もあり、また明らかに不信仰と犯罪で自らを損なう者もいた。
 ●確かに**われら**は、ムーサーとその兄弟であるハールーンに預言者性という恵みを与えた。
 ●またかれら二人とその民であるイスラエルの子孫をフィルアウンへの隷属、そして海に沈没するという大難から救い出した。
 ●**われら**がフィルアウンとその大軍から助けたために、大軍に対して優位に立つことができた。
 ●なお**われら**はかれら二人に、疑問なく物事を明瞭にする律法を授け、
 ●かれら二人を逸脱のない正しい道に導いた。それはイスラームの道であり、それは創造主(賛美あれ)の喜びへの道である。
 ●**われら**はかれら二人のために、後の諸世代の間に称賛と良い言葉を残した。
 ●ムーサーとハールーンを称え、かれらに対する害悪からの安全を祈るために。
 ●ムーサーとハールーンを報いたように、**われら**は正しい行ないをする人々に報いる。
 ●真にかれら二人は、**われら**の命令に従う信心深い僕だった。
 ●確かにイルヤースも、使徒たちのひとりで、アッラーはかれを使徒とし、預言者にするという恩寵を授けられた。
 ●かれがそのイスラエルの子孫にこう言ったときのこと。あなた方はアッラーを畏れないのか。命令に従い、一神教を奉じて、同列に他の神を置かないという禁則を守らないのか。
 ●あなた方はアッラーの代わりにバアル神に祈って、最高の創造主を見捨てるのか。
 ●アッラーこそあなた方の創造主、あなた方の先祖の創造主ではないのか。崇拜するのに最良の方であり、偶像のように益もなく害もないというのとは異なるのだ。

本諸節の功德:

- 「兩人が服従して」というアッラーの言葉は、イブラーヒームとイスマーイールの両名(両名に平安あれ)は、至高なるアッラーの命令に帰順することで(信心は)最高潮に達していたことを示唆している。
- イスラーム法の目的の一つは、僕を人間に服従することから解放することである。
- 称賛と良い言葉は、この世で直ちに与えられる安楽である。

فَكَذَّبُوهُ فَإِنَّهُمْ لَمُحْضَرُونَ ﴿١٢٧﴾ إِلَّا عِبَادَ اللَّهِ الْمُخْلَصِينَ ﴿١٢٨﴾
وَتَرَكْنَا عَلَيْهِ فِي الْآخِرِينَ ﴿١٢٩﴾ سَلَّمَ عَلَىٰ إِبْرَاهِيمَ إِسْحَاقَ وَيُوسُفَ إِذْ بَنَىٰ الصُّلْبَ وَنَحْنُ نَعْلَمُ ﴿١٣٠﴾
كَذَلِكَ نَجْزِي الْمُحْسِنِينَ ﴿١٣١﴾ إِنَّهُ مِنْ عِبَادِنَا الْمُؤْمِنِينَ ﴿١٣٢﴾
وَإِنَّ لَوْطًا لَّمِنَ الْمُرْسَلِينَ ﴿١٣٣﴾ إِذْ نَجَّيْنَاهُ وَأَهْلَهُ أَجْمَعِينَ ﴿١٣٤﴾
إِلَّا عَجُوزًا فِي الْغَدِيرِ ﴿١٣٥﴾ ثُمَّ دَمَرْنَا الْآخَرِينَ ﴿١٣٦﴾ وَإِنَّا لَنَمُرُّونَ عَلَيْهِمْ مُصْبِحِينَ ﴿١٣٧﴾ وَبِالْأَيْلِ أَفَلَا تَعْقِلُونَ ﴿١٣٨﴾ وَإِنَّا
يُوسُفَ لَمِنَ الْمُرْسَلِينَ ﴿١٣٩﴾ إِذْ بَقِيَ إِلَى الْفُلْكِ الْمَشْحُونِ ﴿١٤٠﴾
فَسَاهَمَ فَكَانَ مِنَ الْمُدْحَضِينَ ﴿١٤١﴾ فَالْتَقَمَهُ الْحُوتُ وَهُوَ مُلِيمٌ ﴿١٤٢﴾
فَلَوْلَا أَنَّهُ كَانَ مِنَ الْمُسَبِّحِينَ ﴿١٤٣﴾ لَلَبِثَ فِي بَطْنِهِ إِلَى يَوْمِ يُبْعَثُونَ ﴿١٤٤﴾ * فَنَبَذْنَاهُ بِالْعَرَاءِ وَهُوَ سَقِيمٌ ﴿١٤٥﴾ وَأَنْبَتْنَا
عَلَيْهِ شَجَرَةً مِّنْ يَقْطِينٍ ﴿١٤٦﴾ وَأَرْسَلْنَاهُ إِلَىٰ مِائَةِ أَلْفٍ أَوْ
يَزِيدُونَ ﴿١٤٧﴾ فَآمَنُوا فَمَعَّانَهُمْ إِلَىٰ حَيْثُ ﴿١٤٨﴾ فَاسْتَفْتِهِمْ
الرَّيِّكَ الْبَنَاتُ وَلَهُمُ الْبُتُونَ ﴿١٤٩﴾ أَمْ خَلَقْنَا الْمَلَائِكَةَ إِنَاثًا
وَهُمْ شَاهِدُونَ ﴿١٥٠﴾ أَلَا إِنَّهُمْ مِّنْ أَفْكَهَمَ لِقَوْلُونَ ﴿١٥١﴾ وَلَدَ
اللَّهُ وَإِنَّهُمْ لَكَاذِبُونَ ﴿١٥٢﴾ أَصْطَفَى الْبَنَاتِ عَلَى الْبَنِينَ ﴿١٥٣﴾

الحزب
١٢

かれの民はかれを嘘呼ばわりしたが、そのせいではかれらは罰に呼び出されるのだ。

ただし、民の中でもアッラーの崇拝に至誠だった信仰者は別で、罰へと呼び出されることから無事である。

われらは後世の民においても、かれへの称賛とよい評判を残した。

アッラーからの挨拶と、イルヤースへの称賛として。

われらはこのような良い報いをイルヤースに与えたのと同様、信仰者の僕たちの善行者にも報いる。

イルヤースは、われらの僕たちの内の真の信仰者であり、主への信仰に誠実な者だった。

ルートは吉報と警告を伝える者として遣わされた、アッラーの使徒の内の1人だった。

その民へと送られた罰から、かれとその家族全員をわれらが救った時のことを思い出せ。

ただし、かれの妻は別だった。彼女は民への罰に巻き込まれたが、それは彼女がかれら同様不信仰者だったからだ。

それからわれらは。かれを嘘呼ばわりし、かれのもたらしたものを信じなかった残りの民を滅ぼした。

マッカの民よ、あなた方はシャーム(シリア、パレスチナ周辺地域)への旅において朝、かれらの住居を通りかかる。

また、夜にも。あなた方は、かれらが嘘よばわりし、不信仰に陥り、過去になかったような醜事を犯した後、どのような結末を迎えたのか理解し、教訓を得ないのか？

われらの僕ユーススは、吉報と警告を伝える者として遣わされた、アッラーの使徒の内の1人だった。

かれが主の許可を得ずに、かれの民から逃亡し、乗客と荷物で満載の船に乗った時、

船は重みのために沈みかけた。それで乗客は船の沈没を恐れ、何人かを投げ出すためにくじを引いた。ユーススはくじで負けた者たちの1人となり、海に放り出された。

海に投げられた時、大魚がかれを捕らえ、呑み込んだ。かれは主の許可を得ずに海へ出たために、非難され

るべき状態だった。

このことが起こる前、ユーススがアッラーをよく念じる者でなく、大魚の腹の中でかれを賛美しなかったら、

審判の日まで大魚の腹の中で過ごし、そこがかれの墓場となっただろう。

こうしてわれらはかれを大魚の腹から出し、木や建物のない荒漠とした地に打ち上げた。かれは大魚の腹の中にいたため、身体が弱くなっていた。

われらはその何もない土地に、かれが日陰を得、食べるためのウリの木を生やしてやった。

そして10万以上に及ぶかれの民へと、かれを遣わした。

かれらはかれの伝えたものを信じたので、アッラーは現世の生活において、かれらを定められた期限が来るまで楽しませた。

ムハンマドよ、多神教徒たちに問え。「あなた方はアッラーに、自分たちが嫌っている娘をあてがい、自分たちにはあなた方が好む息子をあてがうのか？この分け方は何なのか？」

かれらはどうして天使たちが女性だと主張するのか？かれらはかれら(天使たち)の創造の場にもおらず、目にしてもいなかったのに？

多神教徒たちはアッラーに対する捏造と嘘から、

かれに子供がいるとしている。かれらはこの主張において、嘘をついている。

アッラーがご自身に、あなた方が好む息子よりも、あなた方が嫌いな娘をお選びになったと？そんなことはあり得ない。

本諸節の功德:

● 信仰者は救われ、不信仰者は滅びるというアッラーの定めの変性。

● 自分たちも二の舞にならないよう、使徒たちを嘘よばわりした者たちの結末から教訓を得ることの必要性。

● くじ引きすることの合法性(本章141節参照)。

مَا لَكُمْ كَيْفَ تَحْكُمُونَ ﴿١٥٩﴾ أَفَلَا تَذَكَّرُونَ ﴿١٦٠﴾ أَمْ لَكُمْ سُلْطَانٌ مُبِينٌ ﴿١٦١﴾
فَأَتُوا بِحُكْمِكُمْ إِنْ كُنْتُمْ صَادِقِينَ ﴿١٥٧﴾ وَجَعَلُوا بَيْنَهُ وَبَيْنَ الْجَنَّةِ
نَسَبًا وَلَقَدْ عَلِمَتِ الْجَنَّةُ إِنَّهُمْ لَمَحْضُرُونَ ﴿١٥٨﴾ سُبْحَنَ اللَّهُ عَمَّا
يَصِفُونَ ﴿١٥٦﴾ الْآعْبَادُ لِلَّهِ الْمُخْلِصِينَ ﴿١٦٢﴾ فَإِنَّكُمْ وَمَا تَعْبُدُونَ ﴿١٦٣﴾
مَا أَنْتُمْ عَلَيْهِ بِفَتَنَيْنِ ﴿١٦٤﴾ إِلَّا مَنْ هُوَ صَالٍ الْجَحِيدِ ﴿١٦٥﴾ وَمَا مِنَّا إِلَّا
لَهُ وَمَقَامٌ مَعْلُومٌ ﴿١٦٦﴾ وَإِنَّا لَنَحْنُ الصَّافُّونَ ﴿١٦٧﴾ وَإِنَّا لَنَحْنُ الْمُسِيحُونَ ﴿١٦٨﴾
وَأَنْ كَانُوا يَقُولُونَ ﴿١٦٩﴾ لَوْ أَنَّ عِنْدَنَا ذِكْرًا مِنْ الْأَوَّلِينَ ﴿١٧٠﴾ لَكُنَّا
عِبَادُ اللَّهِ الْمُخْلِصِينَ ﴿١٦١﴾ فَكَفَرُوا بِهِ ۖ فَسُوفَ يَعْلَمُونَ ﴿١٧١﴾ وَلَقَدْ
سَبَقَتْ كَيْمَتُنَا لِعِبَادِنَا الْمُرْسَلِينَ ﴿١٧٢﴾ إِنَّهُمْ لَهُمُ الْمَنْصُورُونَ ﴿١٧٣﴾
وَإِنَّ جُنْدَنَا لَهُمُ الْغَالِبُونَ ﴿١٧٤﴾ فَتَوَلَّ عَنْهُمْ حَتَّى حِينٍ ﴿١٧٥﴾ وَأَبْصِرْهُمْ
فَسُوفَ يَبْصُرُونَ ﴿١٧٦﴾ أَفَعِدَّاءُنَا لَيْسَ تَعْمَلُونَ ﴿١٧٦﴾ فَإِذَا نَزَلَ بِسَاحَتِهِمْ
فَسَاءَ صَبَاحُ الْمُنْذَرِينَ ﴿١٧٧﴾ وَتَوَلَّ عَنْهُمْ حَتَّى حِينٍ ﴿١٧٨﴾ وَأَبْصِرْ
فَسُوفَ يَبْصُرُونَ ﴿١٧٩﴾ سُبْحَنَ رَبِّكَ رَبِّ الْعِزَّةِ عَمَّا يَصِفُونَ ﴿١٨٠﴾
وَسَلَّمَ عَلَى الْمُرْسَلِينَ ﴿١٨١﴾ وَالْحَمْدُ لِلَّهِ رَبِّ الْعَالَمِينَ ﴿١٨٢﴾

سُورَةُ الصَّافَّاتِ

٨٨

154 多神教徒たちよ、アッラーに娘をあてがい、自分たちには息子をあてがうという不正な判断は、どういうことなのか？

155 このような間違った信仰の無根拠さから、戒められないのか？もし戒められたのなら、このようなことは言わなかっただろうに。

156 それともあなた方には、啓典や使徒による、そのことを示す明らかな根拠や証明があるのか？

157 もし自分たちの主張が正しいと言うなら、そのような根拠が載っているあなた方の啓典を持ってきてみるがい。

158 多神教徒たちは、天使たちはアッラーの娘だという主張により、アッラーと目に見えない天使たちの間に血縁をもうけた。しかし天使たちは、アッラーが多神教徒たちを清算へと連れて来ることを知っているのだ。

159 アッラーは多神教徒たちによってなされる描写とは無縁な、崇高なお方。子供があると共同者があるとかいう描写は、**かれ**に不適切である。

160 だがアッラーの至誠な僕たちは別で、かれらはアッラーをその荘厳さと完璧さに相応しい形で描写する。

161 多神教徒たちよ、あなた方と、あなた方がアッラーをよそに崇拝しているものは、

162 誰のことも真理の宗教から迷わせることは出来ない。

163 ただしアッラーが地獄の民と定めた者は別で、アッラーはその定めを完遂され、不信仰に陥り、地獄に入ることになる。あなた方と、あなた方が崇拝している対象にその力はない。

164 天使たちは、自分たちがアッラーに対する僕であり、多神教徒たちの主張とは無関係であることを説明し、言う。「わたしたちの内、アッラーへの崇拝と服従のための特定の場所を与えられていない者はいない。

165-166 わたしたち天使はアッラーへの崇拝と服従のため、整列して立つ者である。わたしたちはアッラーを、アッラーに相応しくない性質や属性から無縁なものとして称える。」

167-170 マッカの多神教徒たちは、ムハンマドが遣わされる以前、こう言っていた。「わたしたちに律法のような昔の人々の啓典があったら、アッラーだけに至誠を尽くして崇拝したのに。」かれらは嘘をついている。かれらのもとにムハンマドがクルアーンを持って到来したが、かれらはかれ(ムハンマド)を嘘よばわりした。かれらは、かれらを待ち受ける審判の日の厳しい罰を知ることになろう。

171-173 使徒たちに対する**われら**の言葉は、既に下されている。かれらがアッラーからの恩恵である根拠と力によって敵に勝利し、アッラーの言葉が最高のものとなるためにアッラーの道において戦う兵士たちこそ、勝利があるという言葉が。

174 使徒よ、だからかれら多神教徒たちへの罰の時がやって来るまで、アッラーがご存知になる期間の間、背を向けておけ。

175 そしてかれらに罰が下る時、かれらを見るがよい。かれらもまた、視覚が無益になるその時に、見ることになろう。

176 かれら多神教徒たちは、アッラーの罰を急いでいるのか？

177 アッラーの罰がかれらに下った時、かれらの朝は忌まわしいものとなる。

178 使徒よ、アッラーがかれらに罰を執行するまで、かれらに背を向けておけ。

179 そして見よ。かれらも自分たちに、アッラーの罰が降りかかるのを見るだろう。

180 ムハンマドよ、強大さの主であるあなたの主を称えよ。多神教徒たちが**かれ**を描写する不完全な性質から、**かれ**を無縁で崇高なものとして称えるのだ。

181 **かれ**の高貴な使徒たちに、アッラーからの挨拶と称賛あれ。

182 そして全ての称賛はアッラーにあり、**かれ**こそはそれに相応しいお方。**かれ**は万有の主であり、**かれ**の他に主はないのだ。

本諸節の功德:

●使徒たちとその後継者たちが論拠と力において勝利することは、アッラーの定めである。これらのアーヤには、アッラーの兵士たちには勝利があるという偉大な吉報がある。

●これらのアーヤには、多神教徒たちとその偶像が誰のことも迷わすことも出来ないという根拠と、アッラーの至誠な僕たちがアッラーの御力により、迷い迷わす者たちから救われるという吉報がある。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

صَّ وَالْفُرَّاءِ ۚ ذِي الذِّكْرِ ۚ بَلِ الَّذِينَ كَفَرُوا فِي عَذَابٍ وَشِقَاقٍ ۚ
كَمْ أَهْلَكْنَا مِنْ قَبْلِهِمْ مِنْ قَرْنٍ فَنَادَوا وَاوَلَاتِ حَيْنَ مَنَاصٍ ۚ وَتَجَبَّرُوا
أَنْ جَاءَهُمْ مُنْذِرٌ مِنْهُمْ وَقَالَ الْكُفْرُونَ هَذَا سِحْرٌ كَذَّابٌ ۚ
أَجْعَلِ الْآلِهَةَ إِلَهًا وَاحِدًا ۚ إِنَّ هَذَا لَشَيْءٌ عُجَابٌ ۚ وَأَنْطَلَقُ الْمَلَأُ
مِنْهُمْ أَنْ أَمْشُوا وَأَصْبِرُوا عَلَىٰ آلِهَتِكُمْ ۚ إِنَّ هَذَا لَشَيْءٌ يُرَادُ ۚ
مَا سَمِعْنَا بِهَذَا فِي آلِهَةٍ الْأَخْرَجَ ۚ إِنَّ هَذَا إِلَّا اخْتِلَافٌ ۚ أَنْزِلْ
عَلَيْهِ الذِّكْرُ مِنْ بَيْنِنَا ۚ بَلْ هُمْ فِي شَكٍّ مِنْ ذِكْرِي ۚ بَلْ لَمَّا يَدُفَعُوا عَذَابٍ
أَمَّ عَنْهُمْ خَزَائِنُ رَحْمَةِ رَبِّكَ الْعَزِيزِ الْوَهَّابِ ۚ أَمْ لَهُمْ مُلْكُ
السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا فَلْيَرْتَقُوا فِي الْأَسْبَابِ ۚ جُنْدُ
مَا هُنَا لَكَ مَهْرُومٌ مِنَ الْأَحْزَابِ ۚ كَذَّبَتْ قَبْلَهُمْ قَوْمُ نُوحٍ
وَعَادٌ وَفِرْعَوْنُ ذُو الْأَوْتَادِ ۚ وَتَمُودُ وَقَوْمُ لُوطٍ وَأَصْحَابُ
لَيْكَةِ ۚ أُولَٰئِكَ الْأَحْزَابُ ۚ إِنْ كُلُّ إِلَّا كَذَّبَ الرُّسُلَ
فَاحْقَ عِقَابٍ ۚ وَمَا يَنْظُرُ هَؤُلَاءِ إِلَّا صَيْحَةً وَاحِدَةً مِمَّا هِيَ
مِنْ فَوَاقٍ ۚ وَقَالُوا رَبَّنَا عَجَلْنَا قِطْنًا قَبْلَ يَوْمِ الْحِسَابِ ۚ

本章の趣旨:

迷妄の論破とその結末についての言及。

説明:

- ①「サード」については、雌牛章冒頭に同様のアーヤの説明あり。アッラーは、人々への現世と来世における有益な訓戒を含むクルアーンにおいて、誓う。多神教徒たちが思っているように、アッラーに共同者などはいない。
- ②だが不信仰者たちは、アッラーの唯一性の拒否とムハンマドに対する不一致と敵意に熱狂的で、傲慢である。
- ③かれら以前、使徒たちを嘘よばわりしたどれだけ多くの世代を、われらが滅ぼしてきたか。かれらは罰が下ると助けを求めて呼ぶが、その時は助けを呼んでも、もはや罰から救われる時ではない。
- ④不信仰の状態にあり続ければアッラーの罰があると警告する使徒が、かれら自身の間から出現した時、かれらは驚いた。ムハンマドが伝えることの正しさを示す明証を見た時、かれらは言ったのだ。「これは人々を魔術にかける魔術師だ。アッラーから啓示を受けた使徒などと、嘘の主張をしている。
- ⑤この男は多くの神々を、その他に神がない一つの神とするのか?そのようなことは、この上ない驚きだ。」
- ⑥かれらの内の指導者たちは、追従者たちに言いつつ、出た。「あなたの方のやり方を真け。ムハンマドの宗教に入るのではない。あなたの方の神々の崇拝を確固として続けよ。ムハンマドが一つの神の崇拝へと呼びかけるのは、かれがわたしたちの上に立ち、かれへの追従者となるための計画なのだ。
- ⑦ムハンマドが呼びかけているアッラーの唯一性について、わたしたちは聞いたことがない。祖先の間にも、イーサーの民にも、見出したことがない。かれから聞いていることは、嘘と捏造に他ならない。

- ⑧わたしたちの間で、指導者であるわたしたちには下ることなく、特別かれにクルアーンが下るなどということがあろうか? いや、かれら多神教徒たちはあなたに下った啓示に、疑念を抱いている。かれらはまだ罰を味わっていないので、罰が先延ばしにされていることに慢心している。もしそれを味わったら、不信仰やアッラーに対する多神、あなたへの啓示への疑念において、大胆ではいられなかっただろう。
- ⑨かれら嘘つきの多神教徒たちのもとに、あなたの主の御恵みの宝庫があるというのか? **かれ**は誰にも制圧されない偉大なお方であり、お望みのものをお望みの者に与えられるお方。預言者性もその一つであり、**かれ**はそれをお望みの者に与えられる。それはかれが好き勝手に与えたり奪い取ったりできる、かれらの所有物ではないのだ。
- ⑩それともかれらには、天の王権、地の王権、またはその両方の王権があり、望むままに与えたり阻んだり出来るというのか? もしそう考えているなら、方便を用いて天へと昇らせ、与えたり阻んだり、好きな取り決めを出来るようにさせてみよ。かれらにはそんなことは出来ない。
- ⑪かれらムハンマドを嘘よばわりする者たちは、かれ以前の使徒たちを嘘よばわりした者たち同様、敗北させられた軍勢である。
- ⑫かれら嘘呼ばわりする者たちは、最初ではない。かれら以前にもヌーフの民、アードが嘘呼ばわりした。人々を拷問にかける杭を持ったフィルアウンも、そうだった。
- ⑬サムードも、ルートの民も、シュアイブの民も嘘よばわりした。かれらは使徒たちを嘘よばわりし、かれらの伝えたものを否定するために徒党を組んだ党派だった。
- ⑭これらの党派のいかなる者も、使徒の嘘よばわりに陥った。それでかれらには、時にそれが遅れることがあったとしても、アッラーの罰が下ったのだ。
- ⑮かれらムハンマドを嘘よばわりした者たちは、ラッパが二回目に吹かれる時を待っているだけ。それを押し留めることは出来ない。嘘よばわりをしたままこの世を去った者たちには、罰が下るのである。
- ⑯かれらは嘲笑して言った。「主よ、審判の日の前にこの世で、わたしたちに罰の一部をお与え下さい。」

本諸節の功德:

- アッラーはクルアーンにおいて誓った。ゆえにクルアーンを信じ、その意味の抽出に努めなければならない。
- 多神教徒が支配者や高慢な人たちに啓示が降りることを望む気持ちにある、物質的な尺度の克服。
- 不信仰者たちが信仰に背を向けたのは、真理の受容に対する高慢さだった。

⑮使徒よ、かれら嘘よばわりする者たちの、あなたを不興にさせる言葉に忍耐せよ。敵の撃退と、アッラーの服従における忍耐において力強かった**われら**の僕、ダーウードを思い出せ。**かれ**はアッラーにより悔悟し、かれを満足させる行いを多く行う者だった。

⑯**われら**は山々をダーウードに仕えさせ、かれが昼の終わりと朝の始まりに行う賛美に合わせて、賛美させた。

⑰**われら**は鳥を仕えさせ、空に浮かばせた。全てのものは従順に、かれに続いて賛美した。

⑱**われら**はかれの王権を、威厳と力と敵に対する勝利を与えることにより、強めてやった。また、かれに預言者性、物事における正しさ、あらゆる目的における明瞭な説明力、言葉と統率における英断さを与えた。

㉑使徒よ、2人の議論者の話はあなたに届いたか？かれらは、ダーウードの崇拜場所まで乗り越えて入って来た。

㉒かれらが突然尋常ではない形で入って来たため、ダーウードは恐れたが、かれらはそれを察すると言った。「恐れないで下さい。わたしたちの一方が他方に不正を行っており、それでわたしたちは言い争っています。わたしたちの間を、不正のない形で正しく調停して下さい。わたしたちを正しい道へと導いて下さい。」

㉓かれらの1人がダーウードに言った。「これはわたしの兄弟で、99頭の雌羊を所有していますが、わたしは1頭しか所有していません。それなのにその1頭をかれにやるように要求し、議論でわたしを言い負かしたのです。」

㉔ダーウードは2人の間を調停し、訴えている方に言った。「あなたの兄弟は、あなたの雌羊をかれの雌羊に加えさせようとした時、あなたに不正を働いた。多くの共同経営者というものは権利を侵したり不正を働いたりして、互いに侵害するものである。だが信仰者は別で、かれらは善行を行い、共同経営者には不正を働かず、公正さを貫く。しかしそのような者は少ないのだ。」そこでダーウードは、**われら**がこの議論によってかれを試練にかけたことを確信し、主に赦しを求め、アッラーへのお近づきを求めてサジダし、**かれ**に悔悟した。

㉕**われら**はかれに応え、かれを赦した。かれは**われら**に近い者たちの1人であり、かれには来世でよい行き先がある。

㉖ダーウードよ、**われら**はあなたを地上において法を実施し、現世的・宗教的物事を執り行う代理人とした。人々の間を正義で裁き、そこにおいて欲望に従うのではない。近親や友人だからといって係争者に鼎肩(ひいき)してもならないし、敵意や欲望のために不正を働いて正しい道から遠のいてもならない。正しい道から迷う者たちには清算の日を忘れたことによる、強烈な罰がある。もしそのことを想起し、恐れていたのなら、欲望に左右されることはなかったのだから。

本諸節の功德:

- 預言者ダーウードの徳と、かれがアッラーから授かった特別な印の数々の説明。
- 預言者たちは、その使命であるアッラーからの伝達において欠けるところはない。忘却や不注意も起こりえるが、アッラーはそのお優しさによってそれを喚起させる。
- ある種の学者たちは本章24節から、複数の者による共同経営の合法性を導き出している。
- 徳や地位のある者に対して、入室の際などの礼儀を守る必要性。

أَصْبِرْ عَلَى مَا يَقُولُونَ وَادْكُرْ عَبْدَنَا دَاوُدَ ذَا الْأَيْدِ إِنَّهُ وَأَوَّابٌ ۝١٧
سَخَّرْنَا الْجِبَالَ مَعَهُ يُسَبِّحُن بِالْعَشِيِّ وَالْإِشْرَاقِ ۝١٨
مَحْشُورَةً كُلٌّ لَهُ وَأَوَّابٌ ۝١٩ وَشَدَدْنَا مُلْكَهُ وَآتَيْنَاهُ الْحِكْمَةَ وَفَصَلَ الْخِطَابِ ۝٢٠ وَهَلْ أَتَاكَ نَبِيُّ الْخَصْمِ إِذْ تَسَوَّرُوا
الْمِحْرَابَ ۝٢١ إِذْ دَخَلُوا عَلَى دَاوُدَ فَفَزِعَ مِنْهُمْ قَالُوا لَا تَخَفْ
خَصَمَانِ بَغَى بَعْضُنَا عَلَى بَعْضٍ فَأَحْكَمْ بَيْنَنَا بِالْحَقِّ وَلَا تُشْطِطْ
وَاهْدِنَا إِلَى سَوَاءِ الصِّرَاطِ ۝٢٢ إِنَّ هَذَا أَخِي لَهُ تِسْعٌ وَتِسْعُونَ نَجَّةً
وَلِي نَجَّةٌ وَاحِدَةٌ فَقَالَ أَكْفِلْنِيهَا وَعَزَّنِي فِي الْخِطَابِ ۝٢٣ قَالَ
لَقَدْ ظَلَمَكَ بِسُؤَالِ نَجَّتِكَ إِلَى نِعَاجِهِ وَإِنْ كَثِيرٌ مِّنَ الْخَاطِئِ لِيَبْغَى
بَعْضُهُمْ عَلَى بَعْضٍ إِلَّا الَّذِينَ ءَامَنُوا وَعَمِلُوا الصَّالِحَاتِ وَقَلِيلٌ
مَّا هُمْ وَظَنَّ دَاوُدُ أَنَّمَا فَتَنَّاهُ فَاسْتَغْفَرَ رَبَّهُ وَخَرَّ رَاكِعًا وَأَنَابَ ۝٢٤
فَغَفَرْنَا لَهُ ذَلِكَ وَإِنَّ لَهُ عِندَنَا لَزُلْفَىٰ وَحُسْنَ مَّآبٍ ۝٢٥
يَذْكُرُ إِذْ جَعَلْنَاكَ خَلِيفَةً فِي الْأَرْضِ فَاحْكُم بَيْنَ النَّاسِ بِالْحَقِّ
وَلَا تَتَّبِعِ الْهَوَىٰ فَيُضِلَّكَ عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ إِنَّ الَّذِينَ يَضِلُّونَ
عَنْ سَبِيلِ اللَّهِ لَهُمْ عَذَابٌ شَدِيدٌ بِمَا نَسُوا يَوْمَ الْحِسَابِ ۝٢٦

وَمَا خَلَقْنَا السَّمَاءَ وَالْأَرْضَ وَمَا بَيْنَهُمَا بِلَا ذَلِكَ ظُنُّ الَّذِينَ
كَفَرُوا فَوَيْلٌ لِلَّذِينَ كَفَرُوا مِنَ النَّارِ ﴿٢٧﴾ أَمْ يَجْعَلُ الَّذِينَ آمَنُوا وَعَمِلُوا
الصَّالِحَاتِ كَالْمُفْسِدِينَ فِي الْأَرْضِ أَمْ يَجْعَلُ الْمُتَّقِينَ كَالْفُجَّارِ
﴿٢٨﴾ كَتَبَ أَنْزَلْنَاهُ إِلَيْكَ مُبَارَكٌ لِيَدَّبَّرُوا آيَاتِهِ وَلِيَسْتَذْكُرُوا لَوْ
أَلَّا بَلَبِ ﴿٢٩﴾ وَوَهَبْنَا لِذَاوُدَ سُلَيْمَانَ نِعَمَ الْعَبْدِ إِنَّهُ أَوَّابٌ
﴿٣٠﴾ إِذْ عَرَضَ عَلَيْهِ بِالْعِشِيِّ الصِّفَتُ الْجَبَادُ ﴿٣١﴾ فَقَالَ إِنِّي أَحْبَبْتُ
حُبَّ الْحَيْرِ عَنْ ذِكْرِ رَبِّي حَتَّى تَوَارَتْ بِالْحِجَابِ ﴿٣٢﴾ رُدُّوْهَا عَلَيَّ
فَطَفِقَ مَسْحًا بِالْسُوقِ وَالْأَعْنَاقِ ﴿٣٣﴾ وَلَقَدْ فَتَنَّا سُلَيْمَانَ
وَأَلْقَيْنَا عَلَى كُرْسِيِّهِ جَسَدًا ثُمَّ أَنَابَ ﴿٣٤﴾ قَالَ رَبِّ اغْفِرْ لِي وَهَبْ
لِي مُلْكًا لَا يَنْبَغِي لِأَحَدٍ مِّنْ بَعْدِي إِنَّكَ أَنْتَ الْوَهَّابُ ﴿٣٥﴾
فَسَخَّرْنَا لَهُ الرِّيحَ تَجْرِي بِأَمْرِهِ رِخَاءً حَيْثُ أَصَابَ ﴿٣٦﴾ وَالشَّيَاطِينَ
كُلَّ بَنَاءٍ وَغَوَاصٍ ﴿٣٧﴾ وَآخَرِينَ مُقَرَّنِينَ فِي الْأَصْفَادِ ﴿٣٨﴾ هَذَا
عَطَاؤُنَا لَهُمْنَ أَوْ أَمْسِكَ بغيرِ حِسَابٍ ﴿٣٩﴾ وَإِنَّ لَهُ عِنْدَنَا لَزُلْفَىٰ وَحُسْنَ
مَّآبٍ ﴿٤٠﴾ وَأَذْكُرْ عَبْدَنَا أَيُّوبَ إِذْ نَادَىٰ رَبَّهُ أَنِّي مَسَّنِيَ الشَّيْطَانُ
بُضْبٍ وَعَذَابٍ ﴿٤١﴾ ارْكُضْ بِرِجْلِكَ هَذَا مُغْتَسَلٌ بَارِدٌ وَشَرَابٌ ﴿٤٢﴾

〔27〕われらは天地を無意味に創ったのではない。それは不信仰者たちの考えである。このような考えを持つ不信仰者たちに、審判の日の業火の罰という災いあれ。かれらは不信仰と、アッラーに対する悪い憶測の状態のまま他界すれば、そのように罰される。

〔28〕アッラーを信じ、その使徒に従い、善行を行う者たちを、われらが不信仰と罪によって地上で悪を働く者たちと同様にすることはない。またわれらは、そのご命令と禁止事項を守ることで主を恐れる者たちを、罪に溺れる不信仰者たちや偽信者たちと同様にはしない。それらの者たちを同等にすることは、アッラーに相応しくない不正である。アッラーは敬虔な信仰者たちを天国で、性悪な不信仰者たちを地獄で報われる。かれらはアッラーのもとで一様ではなく、その報いも同等ではない。

〔29〕このクルアーンはわれらがあなたに下した啓典で、善と有益さにあふれている。そのアーヤを人々が熟慮し、その意味を熟考し、優れた知性の持ち主が教訓を受けるためのものののだ。

〔30〕われらはダーウードに、息子スライマーンを授けた。それはわれらからかれへの恵みであり、かれの愛しい子となるようにという寵愛によるものだった。スライマーンはよき僕であり、頻繁に悔悟してアッラーに立ち返る者である。

〔31〕ある夕刻に、血統の優れた駿馬が、かれのもとに連れて来られた時のこと。それは1本の足を上げつつ、3本の足で立っていた。かれはそれを太陽が沈むまで見ていた。

〔32〕スライマーンは言った。「太陽が沈むまで、主を想わずに財産にかまけてしまい、アスルの礼拝を遅らせてしまった。」

〔33〕その馬を、もう一度連れて来なさい。」そして馬が戻って来ると、かれは剣でその足と首を打ち始めた。

〔34〕また、われらはスライマーンを試し、かれの王座にシャイターンを送った。かれ(シャイターン)は人間の姿を借り、短時間の間、かれ(スライマーン)の王権を好き勝手にした。それから再びスライマーンに王権は戻り、かれは

シャイターンたちを制圧した。

〔35〕スライマーンは言った。「主よ、わが罪をお赦しになり、わたし以後の誰にも与えられないような特別な王権を、わたしにお授け下さい。主よ、あなたは豊かにお恵みになる、寛容なお方。」

〔36〕われらはかれに応え、かれに風を仕えさせた。それはかれの命令に大人しく従い、力強く敏捷で、かれが望む場所へと運んでくれた。

〔37〕われらはかれに、かれの命令を聞くシャイターンも仕えさせた。その中には建築する者たちも、海中に潜って真珠を採集する者たちもいた。

〔38〕またシャイターンの中には服従させられた反抗的な者たちで、鎖でつながれて動けない者たちもいた。

〔39〕スライマーンよ、これがあなたがわれらに求めて与えられた、われらの恩恵の数々である。だから望む者に与え、望む者には控えよ。それであなたがとお咎めを受けることはない。

〔40〕スライマーンはわれらに近い者たちの1人であり、かれには天国というよい行き先がある。

〔41〕使徒よ、われらの僕アイユーブを思い出せ。かれはアッラーに祈って言った。「シャイターンがわたしに、疲労と罰をもたらししました。」

〔42〕われらはかれに言った。「足で地面を踏むがよい。」かれがその通りにすると、そこから水が湧き出した。かれがそれを飲み、それで洗うと、かれに降りかかっていた害悪は消え去った。

本諸節の功德:

●クルアーン熟考の勧め。

●一連のアーヤには、クルアーンに対する熟考と利益は、心の清浄さと人間の洞察力に応じて得られるということが示されている。

●一連のアーヤは、「アッラーのために何かを放棄した者は、アッラーによってそれより優れた代替物を授かる」という法則の正しさを示す。

وَوَهَبْنَا لَهُ أَهْلَهُ وَمِثْلَهُمْ مَعَهُمْ رَحْمَةً مِنَّا وَذِكْرَى لَأُولَى الْأَلْبَابِ
 ٤٣ وَخُذْ بِيَدِكَ ضِغْتًا قَاصِرًا بِهِ وَلَا تَحْنُثْ إِنَّا وَجَدْنَاهُ صَابِرًا نَعْمَ
 ٤٤ الْعَبْدُ إِنَّهُ أَوَّابٌ ٤٥ وَأَذْكُرْ عَبْدَنَا إِبْرَاهِيمَ إِسْحَقَ وَيَعْقُوبَ أُولَى
 ٤٦ الْأَيْدِي وَالْأَبْصَارِ ٤٧ إِنَّا أَخْلَصْنَاهُمْ بِخَالِصَةٍ ذِكْرَى الدَّارِ ٤٨
 ٤٩ وَإِنَّمَا عِندَنَا لَمِنَ الْمُصْطَفَيْنَ الْأَخْيَارِ ٥٠ وَأَذْكُرْ إِسْمَاعِيلَ
 ٥١ وَالْيَسَعَ وَذَا الْكِفْلِ وَكُلٌّ مِنَ الْأَخْيَارِ ٥٢ هَذَا ذِكْرٌ لِمَن لَّمْ يَكُنْ
 ٥٣ لِحَسَنِ مَّعَابٍ ٥٤ جَنَّتٍ عَدْنٍ مَّفْتَحَتِ لَهُمُ الْأَبْوَابُ ٥٥ مُتَكِبِينَ
 ٥٦ فِيهَا يَدْعُونَ فِيهَا بِقُلْ حَتَّى يُكَفِّرَ كَثِيرٌ مِّنْهُمْ وَشَرَابٌ ٥٧ وَعِنْدَهُمْ قَصِيرَةٌ
 ٥٨ الطَّرْفِ أَثَرًا ٥٩ هَذَا مَا تَوْعَدُونَ لِيَوْمِ الْحِسَابِ ٦٠ إِنَّ هَذَا
 ٦١ لَرِزْقُنَا مَا لَهُ مِنْ تَفَادٍ ٦٢ هَذَا وَانِ لِلظَّالِمِينَ ٦٣ لَشَرِّ مَّعَابٍ
 ٦٤ جَهَنَّمَ يَصْلَوْنَهَا فِي شِسِّ الْمِهَادِ ٦٥ هَذَا فَلْيَذُوقُوهُ حَمِيمٌ
 ٦٦ وَعَسَافٌ ٦٧ وَآخَرُ مِنْ شَكْلِهِ أَزْوَاجٌ ٦٨ هَذَا فَتَوْجٌ
 ٦٩ مُّقْتَحِمٌ مَّعَكُمْ لَا مَرْجَا بِهِمْ إِنَّهُمْ صَالُوا النَّارِ ٧٠ قَالُوا
 ٧١ بَلْ أَنْتُمْ لَا مَرْجَا بِكُمْ أَنْتُمْ قَدْ مَتَمُّوهُ لَنَأْفِئِسَ الْفَرَارُ ٧٢
 ٧٣ قَالُوا رَبَّنَا مَنْ قَدَّمَ لَنَا هَذَا فَزِدْهُ عَذَابًا ضِعْفًا فِي النَّارِ ٧٤

سورة ص

④③ **われら**はかれにゆえ、かれに降りかかっていた害を取り除いた。またかれに家族を授け、更に他にも同様の子息や孫を**われら**からの慈悲として、かれに与えた。それはかれの忍耐への報いであり、忍耐の結末は安息と褒美であるということを、優れた知性の持ち主が思い出すためののだ。

④④ アイユブは妻に対して怒った時、彼女を100回鞭で打つことを誓ったが、**われら**はかれに言った。「アイユブよ、誓いを解消するために、細い枝の束を手にとって、それで妻を叩け。誓いを破るのではない。」そしてかれはその通りにした。**われら**はかれを試練にかけた時、かれの忍耐強さを見出した。かれはよき僕であり、頻繁に悔悟してアッラーに立ち返る者である。

④⑤ 使徒よ、**われら**が選んだ僕たちと、遣わした使徒たちを思い出せ。イブラーヒーム、イスハーク、ヤアクブ。かれらはアッラーへの服従とその喜びを求めることにおいて力強く、真理において至誠と洞察力を有する者たちだった。

④⑥ **われら**はかれらを選び、特別な恩恵を授けた。かれらの心における来世の意識の確立、善行による来世への準備、また人々をそこへと招くことという恩恵である。

④⑦ かれらは**われら**のもので、**われら**への服従と崇拜、人々に対する**われら**のメッセージの伝達のため、**われら**が選んだ者たちである。

④⑧ 預言者よ、イブラーヒームの息子イスマーイール、アルヤサア、ズルキフルを思い出し、かれらをよい称賛で称えよ。かれらはそれに相応しい、アッラーのもので選ばれた者たちなのだ。

④⑨ これはクルアーンの中の、かれらに対するよき称賛の言及。アッラーのご命令と禁止事項を守る敬虔な者たちには、来世においてよい帰りが所がある。

⑤① よい帰り所とは、永遠の天国。かれらは審判の日そこに入り、その門の数々はかれらを歓迎して開け放たれる。

⑤② かれらは装飾されたソファに寄りかかり、多様な果実や酒などの飲み物といったものを始め、何でも望む者を給仕に持て来させる。

⑤③ またかれらの中には、かれらにだけ視線が定められた女性たちがいる。彼女たちは目移りすることなく、同年代である。

⑤④ 敬虔な者たちよ、これが、あなた方が現世で行っていた善行に対する、審判の日のよき褒美の一部。

⑤⑤ **われら**が述べたこの報いは、**われら**が審判の日に敬虔な者たちに与える糧である。その糧は永続し、中断も終わりもない。

⑤⑥ これが敬虔な者たちの報い。他方、不信仰と罪でアッラーの決まりを破った者たちの報いは、かれらの報いとは異なる。かれら(不信仰者たち)には審判の日、悪い帰り所があるのだ。

⑤⑦ その報いは、かれらを包囲する地獄。かれらは灼熱と炎に苦しみ、炎の寝床がある。かれらの寝床は何と忌まわしいことか。

⑤⑧ この罰は、最高点の熱さに達した熱湯。地獄で罰される者たちの身体から流れ出る、膿(うみ)。かれらにそれを飲ませるがよい。それは喉を潤さない飲み物である。

⑤⑨ かれらには同様の、他の罰もある。来世には、かれらが罰されるさまざまな種類の罰があるのだ。

⑤⑩ 地獄に入れば、かれらの間には言い争いや罵り合いが起こり、お互いに責任を逃れ合う。ある者たちは言う。「これは地獄の民の集団で、あなた方と一緒に入ることになる。」するとかれらは応じる。「かれらは歓迎されない者たちだ。かれらはわたしたちが苦しませられている地獄の罰で、苦しめられる。」

⑥① 追従者だった一団は、指導者だった者たちに言う。「いや、指導者たちよ、あなた方こそは歓迎されない者たちである。わたしたちを迷わせて、痛ましい罰をわたしたちに原因づけたのは、あなた方なのだ。地獄の業火というこの終着点の、何と忌まわしいことか。」

⑥② 追従者たちは言う。「主よ、導きが到来した後にはわたしたちを迷わせた者たちには、業火の罰を倍にしてやって下さい。」

本諸節の功德:

● 害悪を忍耐する者には、アッラーが遅かれ早かれ褒美を与えて下さり、祈ればその祈りを叶えて下さる。

● 一連のアーヤには、夫が妻を怪我しない程度に、教育指導的な意味での叩き方をする事の根拠がある。アイユブは妻を叩くことを誓い、そうした。

وَقَالُوا مَا لَنَا لَا نَرَىٰ رِجَالًا كَانُوا نَعُدُّهُمْ مِنَ الْأَشْرَارِ ٦٥
 سِحْرِيًّا أَمْ أَزِغْت عَنْهُمْ الْأَبْصَارَ ٦٦ إِنَّ ذَلِكَ لَحَقٌّ تَخَاصُمُ أَهْلِ
 النَّارِ ٦٧ قُلْ إِنَّمَا أَنَا مُنذِرٌ وَمَا مَنِي إِلَهَ إِلَّا اللَّهُ الْوَاحِدُ الْقَهَّارُ ٦٨
 رَبُّ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضِ وَمَا بَيْنَهُمَا الْعَزِيزُ الْغَفَّلُ ٦٩ قُلْ هُوَ يَبُورُ
 عَظِيمٌ ٧٠ أَنْتُمْ عَنْهُ مُعْرِضُونَ ٧١ مَا كَانَ لِي مِنْ عِلْمٍ بِالْمَلَكِ الْأَعْلَىٰ
 إِذْ يَخْتَصِمُونَ ٧٢ إِنْ يُوحَىٰ إِلَيَّ إِلَّا أَنَّمَا أَنَا نَذِيرٌ مُّبِينٌ ٧٣ إِذْ قَالَ
 رَبُّكَ لِلْمَلِكَةِ إِنِّي خَلَقْتُ بَشَرًا مِّن طِينٍ ٧٤ فَإِذَا سَوَّيْتُهُ وَنَفَخْتُ
 فِيهِ مِنْ رُّوحِي فَقَعُوا لَهُ سَاجِدِينَ ٧٥ فَسَجَدَ الْمَلَكَةُ كُلُّهُمْ
 أَجْمَعُونَ ٧٦ إِلَّا إِبْلِيسَ اسْتَكْبَرَ وَكَانَ مِنَ الْكَافِرِينَ ٧٧ قَالَ
 يٰٓإِبْلِيسُ مَا مَنَعَكَ أَنْ تَسْجُدَ لِمَا خَلَقْتُ بِيدَيَّ اسْتَكْبَرْتَ أَمْ كُنْتَ
 مِنَ الْعَالِينَ ٧٨ قَالَ أَنَا خَيْرٌ مِّنْهُ خَلَقْتَنِي مِن نَّارٍ وَخَلَقْتَهُ مِن طِينٍ
 ٧٩ قَالَ فَأَخْرِجْ مِنْهَا فَإِنَّكَ رَجِيمٌ ٨٠ وَإِنْ عَلَيْكَ لَعْنَتِي إِلَىٰ يَوْمِ الدِّينِ
 ٨١ قَالَ رَبِّ فَأَنْظِرْنِي إِلَىٰ يَوْمِ يُبْعَثُونَ ٨٢ قَالَ فَإِنَّكَ مِنَ
 الْمُنْظَرِينَ ٨٣ إِلَىٰ يَوْمِ الْوَقْتِ الْمَعْلُومِ ٨٤ قَالَ فَبِعِزَّتِكَ
 لَا أُغْوِيَنَّهُمْ أَجْمَعِينَ ٨٥ إِلَّا عِبَادَكَ مِنْهُمُ الْمُحْصِينَ ٨٦

⑥⑤ 高慢な暴君たちは言う。「現世でわたしたちが罰に値
 すると思っていた不幸な者たちが、わたしたちと一緒に
 地獄の中にいるのを見ないが、どうということか？」
 ⑥⑥ かれらを嘲ったり蔑んでいたのが間違いで、かれらは
 罰に値しなかったのか？それともかれらへの嘲笑は正し
 く、かれらは地獄に入ったが、ただかれらの姿が見えな
 いだけなのか？」
 ⑥⑦ われらがあなた方に述べた、審判の日に不信仰者た
 ちの間で起こる言い争いは真実であり、何の疑いもな
 い。
 ⑥⑧ ムハンマドよ、あなたの民の不信仰者たちに言え。「わ
 たしは、不信仰と使徒たちへの嘘よばわりのため、あな
 た方にアッラーの罰が降りかからないよう警告する者に
 他ならない。アッラー以外に崇拝に値する対象はない。
 かれはその偉大さ、属性、美称において唯一であり、全て
 のものが服従する、全てのものの支配者であられる。
 ⑥⑨ かれは天の主、大地の主であり、その両方の主。誰に
 も制圧されない偉大なお方であり、悔悟する僕たちの罪
 をお赦しになるお方。」
 ⑦① 使徒よ、かれら嘘よばわりする者たちに言え。「実にク
 ルアーンは偉大な知らせ。
 ⑦② あなた方はこの偉大な知らせに背を向け、注意を向け
 ない。
 ⑦③ アッラーがわたしに啓示して教えてくれなければ、ア
 ーダムの創造に関して天使たちの間で交わされた話に
 ついて、わたしには何の知識もなかった。
 ⑦④ アッラーがわたしに啓示するのは、わたしがあなた方
 の罰に対する明白な警告者だからである。」
 ⑦⑤ 主が天使たちに、こう言った時のことを思い出せ。「わ
 れは泥から人間(アーダム)を創造する。
 ⑦⑥ われらがその創造を整え、形を正し、わが魂から吹き
 込んだら、かれに向かってサジダせよ。
 ⑦⑦ 天使たちは主の命令に従い、全員がアーダムに向か
 って敬意のサジダをした。
 ⑦⑧ だがイブリースだけは高慢にもサジダしなかった。主
 の命令に対して驕り高ぶる不信仰者だったのだ。

⑦⑨ アッラーは、言われた。「イブリースよ、わが両手で創ったアーダムに対し、なぜサジダしないのか？高慢さがあなたにそうさせた
 のか、それとも以前から自分の主に対して尊大だったのか？」
 ⑦⑩ イブリースは言った。「わたしはアーダムより優れています。あなたはわたしを火から、かれを土から創りました。」かれは、火が土
 よりも高貴だと思い込んでいた。
 ⑦⑪ アッラーはイブリースに言われた。「楽園から出て行け。あなたは呪われ、罵られる者である。
 ⑦⑫ あなたは報いの日、つまり審判の日まで、楽園から放逐されるのだ。」
 ⑦⑬ イブリースは言った。「あなたの僕たちが復活させられる日まで、わたしを死なせず、猶予を与えておいて下さい。」
 ⑦⑭ アッラーは言われた。「あなたは猶予される者である。
 ⑦⑮ あなたが滅びる、決められたその時まで。」
 ⑦⑯ イブリースは言った。「あなたの御力に誓って、わたしは必ずアーダムの子孫を全員迷わせます。
 ⑦⑰ ただし、あなたがわたしから守り、あなただけの崇拝へと至誠を尽くさせた者たちは別ですが。」

本諸節の功德:

- 明らかなテキストがあるのに、類推や法規定の決定をすることは誤りである。
- イブリースの不信仰は、頑迷さと高慢さによる不信仰だった。
- アッラーの崇拝に至誠を尽くした者に、シャイターンは太刀打ちできない。

84 アッラーは言われた。「真理はわれからであり、われは真理を語る。われは真理以外、語らないのだ。」

85 われは審判の日、あなたと、不信仰においてあなたに従ったアダムの子孫全員で、必ず地獄を満たすのだ。」

86 使徒よ、かれら多神教徒たちに言え。「あなた方に伝える忠告に関して、わたしは見返りなど求めている。わたしは自分が命じられた以上のことを、無理に演じようとする者ではない。」

87 クルアーンは人間とジンに対する、訓戒に他ならない。

88 あなた方は必ず、このクルアーンの知らせを知り、あなたがいずれ死ぬ時になって真実であることを知るだろう。」

39. 集団章(アッ・ズマル)

マッカ啓示

本章の趣旨:

アッラーの唯一性と信者の至誠、および多神教の放棄への呼びかけ

説明:

1 誰にも制圧されない偉大なお方であり、創造と采配と法規定において英知あふれるお方アッラーからの、クルアーンの啓示。それはアッラー以外の者から下されたものではない。

2 使徒よ、われらはクルアーンをあなたに下した。それは真理にあふれ、それに含まれる情報は全て正しく、法規定は全て公正である。だからアッラーだけを崇拝せよ。多神から遠ざかり、かれの唯一性信仰に至誠を尽くせ。

3 アッラーにとっては、多神と無縁な宗教しかない。アッラー以外に偶像や崇拝対象を設ける者たちは、アッラーをよそにそれらを崇拝し、その崇拝にこのような言い訳をする。「わたしたちがそれらを崇拝するのは、それらがわたしたちをアッラーへと近づかせ、わたしたちの必要をかれに伝え、かれのもとでの執り成しをしてくれるためである。」アッラーは審判の日、アッラーだけを崇拝する信仰者たちと、多神を犯す不信仰者たちの間を、かれの唯一性に関して意見を異ならせていたことに関し、裁決を下される。アッラーは、かれに嘘について共同者があるとし、かれの恩恵に恩知らずな者を、真理へと導きにはならない。

4 アッラーが子供を選ぶのなら、お望みの者を被造物の中から選んで子供に地位につけただろう。かれは、かれら多神教徒たちが言うことから無縁で崇高なお方。その本質、属性、行為において唯一で、そこにおいて共同者などないお方であり、全ての被造物を制圧するお方。

5 かれは大きな英知のために、天地を創造した。不正者たちが言うように、無意味に創造したのではない。かれは夜を昼に入れ、昼を夜に入れるが、一方が出現すれば他方は不在となる。またかれは太陽と月を仕えさせたが、そのいずれも決められた時であるこの生の終わりの時まで、進む。かれは敵に復讐する偉大なお方であり、誰にも制圧されることなく、悔悟する僕たちの罪を赦されるお方。

本諸節の功德:

- アッラーへと招く者は、かれの褒美を期待するのであり、真理へと招くことによる見返りを人々から望まない。
- 無理に何かを演じることは、宗教ではない。
- アッラーに何かを仲介させた祈りは、かれの美称、属性、かれへの信仰、善行によるのであり、それ以外のものはない。

قَالَ فَالْحَقُّ وَالْحَقُّ أَقُولُ ﴿٨٥﴾ لَأَمْلَأَنَّ جَهَنَّمَ مِنْكَ وَمِمَّن تَبِعَكَ مِنْهُمْ أَجْمَعِينَ ﴿٨٦﴾ قُلْ مَا أَسْأَلُكُمْ عَلَيْهِ مِنْ أَجْرٍ وَمَا أَنَا مِنَ الْمُتَكَلِّفِينَ ﴿٨٧﴾ إِنَّ هُوَ إِلَّا ذِكْرٌ لِلْعَالَمِينَ ﴿٨٨﴾ وَلِتَعْلَمَنَّ نَبَأَهُ بَعْدَ حِينٍ ﴿٨٩﴾

سُورَةُ الزُّمَرِ

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

تَنْزِيلُ الْكِتَابِ مِنَ اللَّهِ الْعَزِيزِ الْحَكِيمِ ﴿١﴾ إِنَّا أَنْزَلْنَاهُ إِلَيْكَ الْكِتَابَ بِالْحَقِّ فَاعْبُدِ اللَّهَ مُخْلِصًا لَهُ الدِّينَ ﴿٢﴾ أَلَا لِلَّهِ الدِّينُ الْخَالِصُ وَالَّذِينَ اتَّخَذُوا مِنْ دُونِهِ أَوْلِيَاءَ مَا نَعْبُدُهُمْ إِلَّا لِيُقَرِّبُونَا إِلَى اللَّهِ زُلْفَىٰ إِنَّ اللَّهَ يَحْكُمُ بَيْنَهُمْ فِي مَا هُمْ فِيهِ يَخْتَلِفُونَ إِنَّ اللَّهَ لَا يَهْدِي مَنْ هُوَ كَاذِبٌ كَفَّارٌ ﴿٣﴾ لَوْ أَرَادَ اللَّهُ أَنْ يَتَّخِذَ وَلَدًا لَأَصْطَفَىٰ مِمَّا يَخْلُقُ مَا يَشَاءُ سُبْحَنَهُ هُوَ اللَّهُ الْوَاحِدُ الْقَهَّارُ ﴿٤﴾ خَلَقَ السَّمَوَاتِ وَالْأَرْضَ بِالْحَقِّ يُكْوِّرُ الْعِلَّ عَلَى النَّهَارِ وَيُكْوِّرُ النَّهَارَ عَلَى الْعِلِّ وَسَخَّرَ الشَّمْسَ وَالْقَمَرَ كُلٌّ يَجْرِي لِأَجَلٍ مُسَمًّى ۚ أَلَا هُوَ الْعَزِيزُ الْغَفَّارُ ﴿٥﴾

خَلَقَكُمْ مِنْ نَفْسٍ وَاحِدَةٍ ثُمَّ جَعَلَ مِنْهَا زَوْجَهَا وَأَنزَلَ لَكُمْ
مِّنَ الْأَنْعَامِ ثَمَنِيَّةً ۚ أَرْوَجُ يَخْلُقُكُمْ فِي بُطُونِ أُمَّهَاتِكُمْ
خَلْقًا مِّن بَعْدِ خَلْقٍ فِي ظُلُمَاتٍ ثَلَاثَ ذَلِكُمُ اللَّهُ رَبُّكُمْ لَهُ
الْمُلْكُ لَا إِلَهَ إِلَّا هُوَ قَاتِي نَصْرُوتٍ ۖ إِن تَكْفُرُوا فَإِنَّ
اللَّهَ عَنِّي وَعَنْكُمْ وَلَا يَرْضَىٰ لِعِبَادِهِ الْكُفْرَ ۚ وَإِن تَشْكُرُوا يَرْضَهُ
لَكُمْ وَلَا تَزِرُ وَازِرَةٌ وِزْرَ أُخْرَىٰ ۚ ثُمَّ إِلَىٰ رَبِّكُمْ مَرْجِعُكُمْ
فَيُنَبِّئُكُمْ بِمَا كُنتُمْ تَعْمَلُونَ ۚ إِنَّهُ وَعَلِيمٌ بِذَاتِ الصُّدُورِ ﴿٧﴾

* وَإِذَا مَسَّ الْإِنسَانَ ضُرٌّ دَعَا رَبَّهُ مُنِيبًا إِلَيْهِ ثُمَّ إِذَا خَوَلَهُ نِعْمَةٌ
مِّنْهُ نَسِيَ مَا كَانَ يَدْعُو إِلَيْهِ مِن قَبْلٍ وَجَعَلَ لِلَّهِ أَنْدَادًا يُّضِلُّ
عَنْ سَبِيلِهِ ۚ قُلْ تَتَّبِعْ يَكْفُرُ ۖ قَلِيلًا إِنَّكَ مِنْ أَصْحَابِ النَّارِ
﴿٨﴾ أَمَّنْ هُوَ قُنُوتُ ۚ أَمَّا اللَّيْلُ سَاجِدًا ۚ أَوْ قَائِمًا يَمُوتُ ۚ الْآخِرَةُ
وَيَرْجُوا رَحْمَةَ رَبِّهِ ۚ قُلْ هَلْ يَسْتَوِي الَّذِينَ يَعْلَمُونَ وَالَّذِينَ
لَا يَعْلَمُونَ ۚ إِنَّمَا يَتَذَكَّرُ أُولُو الْأَلْبَابِ ﴿٩﴾ قُلْ يَعْبَادِ الَّذِينَ
ءَامَنُوا اتَّقُوا رَبَّكُمُ لِلَّذِينَ أَحْسَنُوا فِي هَذِهِ الدُّنْيَا حَسَنَةٌ
وَأَرْضُ اللَّهِ وَاسِعَةٌ ۚ إِنَّمَا يُوَفَّى الصَّابِرُونَ أَجْرَهُمْ بِغَيْرِ حِسَابٍ ﴿١٠﴾

⑥ 人々よ、主はあなた方を1人の人間であるアーダムから創り、そしてアーダムとその妻ハウワーから創造した。またあなた方のために、ラクダ、牛、羊、山羊の雌雄という、8種類のを創った。**かれ**はあなた方を母親の胎内で、腹部、胎盤という闇の中で、段階を経て形成する。これら全ての創造者が、あなた方の主アッラー。**かれ**に王権は属し、アッラー以外に崇拝すべきものはない。なのに、どうしてあなた方は**かれ**の崇拝から、何も創造しなければそれら自身が被造物であるようなものの崇拝へと逸れるのか？

⑦ 人々よ、もしあなた方が主の不信仰に陥っても、アッラーはあなた方の信仰など必要とはしておらず、あなた方の不信仰が**かれ**を害することもない。あなた方の不信仰は、あなた方自身を害するだけ。**かれ**は僕たちが不信仰になるのをお喜びにはならず、それを命じもしない。アッラーは醜い事や悪事を命じることはないのだ。あなた方がアッラーにその恩恵を感謝し、**かれ**を信じれば、**かれ**はそれをお喜びになり、その状態を継続させて下さる。人が他人の罪を負うことはなく、人は自分の行いだけを問われる。そして審判の日には主のもとへと帰り行き、そこで現世での行いを告げられ、その報いを受ける。**かれ**は僕たちの心中をご存知であり、**かれ**に何も隠し事は出来ない。

⑧ 不信仰者たちは病気、財産の消失、溺死への恐怖などの災難に襲われれば、主だけに立ち返って、その害を取り除いてくれるよう祈る。しかしアッラーが害を取り除いてくれるという恩恵をかけてくれた後には、それまでがかりついていたアッラーを放棄し、**かれ**の他に共同者を並べて崇拝する。それによって、アッラーに至る道から他の人々を遠ざけてしまう。使徒よ、そのような者に言え。「残りの僅かな人生を、不信仰で楽しんでいよ。あなたは審判の日、地獄と付き切りになる者である。」

⑨ アッラーに服従し、夜に礼拝に立ち、主にサジダして

過ぎ、来世の罰を恐れ、**かれ**の慈悲を望む者がよいのか？それとも苦境においてはアッラーを崇拝し、安楽な状況においては**かれ**を否定し、アッラーに共同者を並べる不信仰者がよいのか？使徒よ、言え。「アッラーを知るために、**かれ**から命じられた義務を知る者たちと、そのことに全く無知な者たちは同様か？両者の違いを知るのは、正常な理性を持った者だけである。」

⑩ 使徒よ、**われ**とわが使徒たちを信じた者たちに言え。「そのご命令と禁止事項への服従によって主を畏れよ。現世でよい行いをする者には、現世では援助や健康や財産といったよいものがあり、来世では天国がある。アッラーの地は広いのだから、アッラーを禁じられることなく崇拝できる場所へと移住せよ。忍耐する者たちは審判の日、さまざまな多くの褒美を与えられよう。」

本諸節の功德:

- 母親の胎内における人間に対しての、アッラーのご関心。
- アッラーの豊かさとお喜びという属性の確証。
- 不信仰者は苦境においてアッラーを認め、順境においては否定するが、それは混乱と無節操さを示している。
- 恐怖と希望は信仰者の特性である。

قُلْ إِنِّي أُمِرْتُ أَنْ أَعْبُدَ اللَّهَ مُخْلِصًا لَهُ الدِّينَ ۚ وَأُمِرْتُ لِأَنْ أَكُونَ
 أَوَّلَ الْمُسْلِمِينَ ۚ قُلْ إِنِّي أَخَافُ إِنْ عَصَيْتُ رَبِّي عَذَابَ يَوْمٍ عَظِيمٍ ۚ
 قُلْ اللَّهُ أَعْبَدُ مُخْلِصًا لَهُ دِينِي ۚ فَأَعْبُدُوا مَا شِئْتُمْ مِنْ دُونِهِ ۗ
 قُلْ إِنَّ الْخَاسِرِينَ الَّذِينَ خَسِرُوا أَنْفُسَهُمْ وَأَهْلِيَهُمْ يَوْمَ الْقِيَمَةِ
 أَلَا ذَلِكَ هُوَ الْخَسِرَانُ الْمُتَمِّينُ ۚ لَهُمْ مِنْ فَوْقِهِمْ ظُلَلٌ مِنَ النَّارِ
 وَمِنْ تَحْتِهِمْ ظُلَلٌ ۚ ذَلِكَ يُخَوِّفُ اللَّهَ بِهِ عِبَادُهُ ۚ يَعْبُدُونِ فَاتَّقُوا اللَّهَ
 وَالَّذِينَ أَجْتَنَبُوا الظُّلُمَاتِ أَنْ يَعْبُدُوا مَا أَتَوْا إِلَى اللَّهِ لَهُمُ الْبُشْرَى
 فَبَشِّرْ عِبَادِ ۚ الَّذِينَ يَسْتَمِعُونَ الْقَوْلَ فَيَتَّبِعُونَ أَحْسَنَهُ ۚ
 أُولَٰئِكَ الَّذِينَ هَدَى اللَّهُ ۖ وَأُولَٰئِكَ هُمْ أُولُوا الْأَلْبَابِ ۚ
 أَفَمَنْ حَقَّ عَلَيْهِ الْعَذَابُ أَفَأَنْتَ تُنْقِذُ مَنْ فِي النَّارِ ۚ
 لَكِنَّ الَّذِينَ اتَّقَوْا رَبَّهُمْ لَهُمْ غُرَفٌ مِّنْ فَوْقِهَا غُرَفٌ مَّبْنِيَّةٌ تَجْرَى
 مِنْ تَحْتِهَا الْأَنْهَارُ وَعَدَ اللَّهُ لَا يَخْلِفُ اللَّهُ الْأَمْعَادَ ۚ أَلَمْ تَرَ
 أَنَّ اللَّهَ أَنْزَلَ مِنَ السَّمَاءِ مَاءً فَسَلَكَهُ يَنْبِيعٌ فِي الْأَرْضِ ثُمَّ
 يُخْرِجُ بِهِ زَرْعًا مُّخْتَلِفًا أَلْوَانُهُ ثُمَّ يَهِيَجُ فَتَرَاهُ مُصْفَرًّا ثُمَّ
 يَجْعَلُهُ حُطْلَمًا ۚ إِنَّ فِي ذَٰلِكَ لَذِكْرًا لِأُولِي الْأَلْبَابِ ۚ

⑪使徒よ、言え。「私はアッラーに、**かれ**だけを至誠を尽くして崇拜するよう命じられた。

⑫この共同体の中で、最初に**かれ**に従う者になるよう、命じられたのだ。」

⑬使徒よ、言え。「わたしは、もしアッラーに逆らい、従わなければ、偉大な審判の日の罰を恐れる。」

⑭使徒よ、言え。「私はアッラーだけを、至誠を尽くして崇拜する。**かれ**に並べて何も崇拜しない。

⑮多神教徒たちよ、アッラーをよそに、あなたが望む偶像を崇拜するがいい(これは誓いの意味の命令)。「使徒よ、言え。「真の損失者とは、天国と一緒に入れないか、または地獄と一緒に入ることにより、自分自身と家族を損失させた者。**かれ**らはお互い永遠に会えない。これが疑念のない、明らかな損失である。」

⑯かれらには上からも下からも、煙、炎、灼熱があるが、アッラーはそれらの罰によって僕たちを恐れさせるのだ。**わが**僕たちよ、**わが**命令と禁止事項への服従によって、**われ**を畏れよ。

アッラーは罪深い者たちに言及した後、正しい僕たちについて語って言う。

⑰偶像も、アッラー以外に崇拜されているいかなるものも避け、アッラーに悔悟する者たちには、死後、墓の中、審判の日において天国の吉報がある。だから使徒よ、**わが**僕たちに吉報を告げよ。

⑱かれらは言葉を聞けばよいものと醜いものを判別し、有益な最善の言葉に従う者たち。このような特徴を備えた者たちは、アッラーによって導かれた者たちであり、正しい理性を持った者たちである。

⑲不信仰と迷いを続けているため、罰の言葉が定められた者については、使徒よ、あなたは導くことが出来ない。使徒よ、このような者を、あなたは地獄から救うことが出来るというのか？

⑳だが、その命令と禁止事項への服従によって主を畏れる者たちには、高い居場所がある。それは互いに積み重なり、その下からは河川が流れている。アッラーはそれをかれらに約束したのであり、**かれ**は約束を破らない。

㉑あなた方は、アッラーが天から雨水を降らせ、それを泉や川に入れ、その水からさまざまな色の農産物を出すのを見て知っている。それから**かれ**は農産物を枯れさせるが、それを見る者よ、あなたは以前緑だったものが黄色くなり、枯れた後に散り散りになるのを見る。その中には、生きた心を持つ者にとっての教訓があるのだ。

本諸節の功德:

- アッラーへの崇拜における至誠は、それが受け入れられることの条件の一つである。
- 背反はアッラーからの罰とお怒りを招くこと
- 最終的に信仰へと導くことを決定するのはアッラーで、使徒にその力はない。

أَفَمَنْ شَرَحَ اللَّهُ صَدْرَهُ لِلْإِسْلَامِ فَهُوَ عَلَى نُورٍ مِنْ رَبِّهِ فَوَيْلٌ
لِّلْقَاسِيَةِ قُلُوبُهُمْ مِنْ ذِكْرِ اللَّهِ أُولَٰئِكَ فِي ضَلَالٍ مُّبِينٍ ﴿٢٧﴾
اللَّهُ نَزَّلَ أَحْسَنَ الْحَدِيثِ كِتَابًا مُّتَشَبِهًا مَّثَانِيَ تَقْشَعِرُّ مِنْهُ
جُلُودُ الَّذِينَ يَخْشَوْنَ رَبَّهُمْ ثُمَّ تَلِينُ جُلُودُهُمْ وَقُلُوبُهُمْ
إِلَى ذِكْرِ اللَّهِ ذَٰلِكَ هُدَى اللَّهِ يَهْدِي بِهِ اللَّهُ مَنِ إِشَاءَ وَمَنْ
يُضِلِّ اللَّهُ فَمَا لَهُ مِنْ هَادٍ ﴿٢٨﴾ أَفَمَنْ يَتَّبِعِ بَوَجهَهُ سَوَاءَ
الْعَذَابِ يَوْمَ الْقِيَمَةِ وَقِيلَ لِلظَّالِمِينَ ذُوقُوا مَا كُنْتُمْ تَكْسِبُونَ
﴿٢٩﴾ كَذَّبَ الَّذِينَ مِنْ قَبْلِهِمْ فَاتَتْهُمْ الْعَذَابُ مِنْ حَيْثُ
لَا يَشْعُرُونَ ﴿٣٠﴾ فَأَذَا فَهُمُ اللَّهُ الْخَزَىٰ فِي الْحَيَوةِ الدُّنْيَا وَالْعَذَابِ
الْآخِرَةِ أَكْبَرُ لَوْ كَانُوا يَعْلَمُونَ ﴿٣١﴾ وَلَقَدْ ضَرَبْنَا لِلنَّاسِ فِي
هَٰذَا الْقُرْآنِ مِنْ كُلِّ مَثَلٍ لَّعَلَّهُمْ يَتَذَكَّرُونَ ﴿٣٢﴾ فَرَأَوْا نَاعِرِيًّا
غَيْرَ ذِي عِوَجٍ لَّعَلَّهُمْ يَتَّقُونَ ﴿٣٣﴾ ضَرَبَ اللَّهُ مَثَلًا رَجُلًا فِيهِ
شُرَكَاءُ مُتَشَابِهُونَ وَرَجُلًا سَلَمًا لِرَجُلٍ هَلْ يَسْتَوِيَانِ مَثَلًا
الْحَمْدُ لِلَّهِ بَلْ أَكْثَرُهُمْ لَا يَعْلَمُونَ ﴿٣٤﴾ إِنَّكَ مَيِّتٌ وَإِنَّهُمْ
مَيِّتُونَ ﴿٣٥﴾ ثُمَّ إِنَّكُمْ يَوْمَ الْقِيَمَةِ عِنْدَ رَبِّكُمْ تَخْتَصِمُونَ ﴿٣٦﴾

②⑦ アッラーがその胸をイスラームへと広げ、そこへと導き、主から眼を開かされた者は、アッラーを念じることから心が硬化した者と同様か？いや、全く同様でない。導かれた者たちには救いがあり、アッラーを念じることから心が硬化した者たちには損失がある。かれらは明らかに真理から迷っている。

②⑧ アッラーは使徒ムハンマドに、最良の話であるクルアーンを下した。それはその正しさ、美しさ、調和、矛盾のなさにおいて各箇所が相似しており、説話、法規定、吉報・警告、真理の民の特徴・虚妄の民の特徴などが、数多く描写されている。主を畏れる者たちは、そこにある警告を聞けば戦慄を覚え、そこにある吉報を聞けばアッラーを念じることへと肌と心が和らぐ。クルアーンとその効果こそは、アッラーがお望みの者をそれによって導く導き。アッラーはかれが見捨てる者には導きを与えず、誰もそのような者を導くことは出来ない。

②⑨ アッラーから導かれたことで現世において成功し、来世では天国に入れられるような者と、不信仰のまま死んで手足を縛られた状態で地獄に入れられた者とは同等か？しかもその者は逆さまにされた自分の顔しか、地獄を防ぐものはないのだ。不信仰と罪によって自らに不正を働いた者たちには、こう言われる。「不信仰と罪によって稼いでいたものを、味わえ。それがお前たちの報いだ。」

③① かれら多神教徒たちの前にも、数々の民が嘘呼ばわりした。それでかれらが予想さえしないところから、悔悟する準備もないままに、突然罰が訪れたのだ。

③② アッラーはその罰によって、現世においてはかれらに屈辱を与えたが、かれらを待ち受ける来世の罰はもっと凄惨で厳しいのである。かれらがそのことを知っていたのなら。

②⑦ われらはムハンマドに下されたこのクルアーンの中で、善悪、真理と虚妄、信仰と不信仰といったことにおいて、人々にさまざまなたとえを挙げた。それはかれらが教訓を受け、真理によって行い、虚妄を放棄することを期待してのことである。

②⑧ われらはそれをアラビア語のクルアーンとした。それに間違いや疑わしい部分はない。それはかれらがアッラーの命令と禁止事項への服従によって、かれを畏れるようになることを期待してのこと。

②⑨ アッラーは、多神教徒と一神教徒のたとえとして、互いに争う共同者たちに所有された一人の男を挙げる。かれが、かれら(共同所有者)の一部を満足させれば、別の一部を怒らせることになり、大変困惑した状態にある。他方、一人の所有者に真摯に仕える男がいる。かれは所有者の望むことを知っており、安心し落ち着いている。これらの2人の男は同等だろうか？アッラーに賛美あれ。多くの者たちは知らないものであり、そのためにアッラーに別のものを並べるのだ。

③① 使徒よ、あなたは死に、かれらも必ず死ぬことになる。

③② そして人々よ、あなた方は審判の日、互いに言い争っていることに関して主のもので議論することになり、正しい者が誤った者から判別されることになる。

本諸節の功德:

- 信仰と敬虔さの民はクルアーンを聞けば恐れるが、罪の失意の民には役に立たない。
- 使徒が伝えることを嘘呼ばわりすることは、現世か来世、またはその両方における罰の原因である。
- クルアーンは現世のことも来世のことも、一般的な形であろうと詳細にわたってあろうと、余すことなく説明し、数々のたとえを挙げた。